

但水難其他臨時ノ罹災ニテ諸簿記類ヲ失スルノ患ヲ防カン爲メ各課員
トモ毎夜之ヲ別冊ニ寫スヘシ

第二十條

一實測ヲ施ス地ニ至リタルトキハ其地畧圖ノ有無ヲ郡區長或ハ戶長等ニ尋
問シ若シ有ルトキハ必ス之ヲ寫シ取ルヘシ又部落岬角島嶼等ノ名稱モ郡
區長或ハ戶長等ニ依リ成ル可ク證憑アツテ信スルニ足ルヘキモノヲ記載
スルニ注意スヘシ

第二十一條

一外國地方ヲ測量スルトキハ其地名等詳カニ其官吏へ尋問スヘシ

第二十二條

一錨地ノ底質ヲ收藏スルハ丙課員ノ任タルヘシ

第二十三條

一凡ソ六分儀ヲ使用スルノ各員ハ其施術ノ初メニ該儀差ヲ正スコトニ注意

スヘシ又丁課員海岸測ヲ施スニハ某二點間ヲ一區トシテ之ヲ測ルヘシ而
シテ關係ノ遠キ點ヲトリ或ハ某位ヲ定ムルニ三點二角法ヲ用ユルコトハ
固ク禁ス

第二十四條

一原板ハ測畫ノ最モ樞要ナルモノ故ニ甲課員ノ他猥リニ之ヲ取扱フヘカラス

第二十五條

一測量竣功シテ歸局後原圖ヲ差出ストキハ第十五條ニ示シタル諸簿記ヲ添
ヘテ之ヲ課長ニ差出シ課長ヨリ局長ニ差出スヘシ
但該圖書トモ成ル可クハ正副ニタ揃ヲ差出スヘシ若シ又出張先ヨリ送
ルコトアルトキハ正本ヲ局へ送り副本ハ殘シ置キ歸京ノ後チ之ヲ差出
スヘシ尤此諸簿記類ハ局長一覽ノ上課長へ下附スヘキニ付其課ニ於テ
夫々ニ保存シ置クヘシ

第二十六條

一 乙課員經線儀ヲ取扱フニハ宜シク經線儀取扱心得書ニ從フヘシ

第二十七條

一 丙課員驗潮ニ從事シ又其潮候時干滿差等ヲ定ムルニハ宜シク驗潮心得書ニ從フヘシ

淨寫心得書

第一條

海圖其他ノ原稿ヲ渡サレタルトキハ査閱ノ上之ヲ接受シ淨寫ノ際墨ヲ點シ或ハ汚物ニ觸レ或ハ折損セサル様ニ注意シ日々終業ノ上之ヲ取片付始終總テ丁寧ニ取扱フヘシ

第二條

寫圖等卒成シタルトキハ必ス原稿ト比較シ其圖面ニ捺印シ原稿類ヲ添ヘテ之ヲ課長ニ差出スヘシ

第三條

圖板ヲ受取リタルトキハ先ツ其新陳良否及其續目空隙ノ有無ヲ視察シ酒準ヲ以テ板面ノ平不平ヲ檢シ而シテ淨寫スヘキ圖大ナルモノ或ハ淨寫時間ノ數月ニ涉ルヘキモノハ特ニ良品ヲ用ユヘシ

第四條

製圖紙ノ良否ハ最初買入ノ際用度掛ニ於テ注意スルモノナレトモ久シク貯藏シタル分ハ其ノ乾濕ヲ檢シ務メテ乾燥ノモノヲ用ヒ且紙質ニヨリテ一面ノ内厚薄アルモノナレハ務メテ平滑ノ品ヲ擇ミテ用ユヘシ

第五條

製圖紙ヲ圖板ニ貼附スルトキハ其糊質ノ良否ヲ檢シ且貼附シタル糊ノ疎密ナキ様注意スヘシ

第六條

映臨紙ヲ以テ轉寫ノ用ニ供スルトキハ漲縮甚シキ品柄ナルヲ以テ綿密ニ之ヲ檢シ且油氣濃カニ墨ヲ受ケサルモノハ或ハ卷尾ノ皺縮シタル部分ハ決シテ用ユヘカラス

第七條

凡ソ一面ノ圖ヲ淨寫スルトキハ用ユル所ノ定規ハ始終一器ニ限ルヘシ尤モ

著手ノ際先ツ其器ノ角正角ナルヤ其面水平ナルヤ其邊直線ナルヤヲ檢スハシ

第八條

映臨紙ヲ以テ原稿ヲ模寫スルトキハ原稿ト映臨紙トノ間ヲ密著シテ浮動セサラシメ而シテ雙方ノ紙質雨濕ニ觸レ寒熱ニ感シテ漲縮ヲ生セサル様注意スヘシ尤モ火鉢等ヲ其近傍ニ置クヘカラス

第九條

凡ソ原稿ハ測量士官ノ製スルモノニシテ原點海岸線水深及ヒ地名等ハ頗ル正確ナレトモ山脈等ハ僅ニ其概形ヲ畫キ沙濱岩壁等多クハ著色シ且字體ノ大小文章ノ位置等モ一定セサルモノ故題號國名地名文章羅鍼形其他ノ位置大小等ハ淨寫ノ際殊ニ注意シテ圖スルモノトシ通常複寫トハ其趣キヲ異ニスルナリ

第十條

凡ソ圖面ノ輪廓ヲ畫線スルハ輕易ニスヘカラサルモノナレハ三角定規ヲ用ユルコトナク必ス幾何ノ術ヲ盡シ直角直線ニ之ヲ作ルヘシ

第十一條

海岸線及ヒ沙堆島嶼等ノ周圍ヲ圖寫スルトキハ原稿ニ照合シ總テ製圖例式ニ據テ區別スヘシ

第十二條

水深ノ數字ハ原稿所載ノ位置ニ差ハサル様注意シ且原稿ノ字體粗ニシテ大ナルモノハ其字心ヲ以テ位置ヲ定メ製圖例式ニ據テ同一ノ字體字量ニ作ルヘシ

第十三條

海圖ノ題號海灣港泊岬角浦濱等ノ名稱及ヒ緒言測者氏名等ノ文字ハ其圖ノ疎密大小ニ從ヒ製圖例式ニ據テ其大小間隔ヲ定メ誤脱ナキ様明朝風ニ作ルヘシ

第十四條

海里尺ハ海圖淨寫ニ關シ肝要ナルモノナレハ課長ノ檢閲ヲ乞ヒ原基尺量ニ據リテ圖上ニ明記スヘシ

第十五條

横文ハ總テ英式ヲ用ヒ其字ノ體裁大小及ヒ間隔等ハ製圖例式ニ據リテ誤字ナキ様ニ記スヘシ

第十六條

山脈ハ高低ニ從ヒ其濃淡疎密等製圖例式ニ據テ畫クヘシ

第十七條

墨ハ和製ノ良品ヲ用ヒ每朝新研ノ墨汁ヲ吉野紙ニテ漉スヘシ決シテ宿墨ヲ用ユヘカラス

第十八條

圖面ノ海岸線其他ニ著色シ或ハ其燈臺等ノ火光ニ著色スルトキハ彩色模本

ト一様ノ彩色ニ染ムヘシ

第十九條

凡ソ圖面ハ野畫外ト雖モ無用ノ點線ヲ著ケ或ハ汚點ヲ著ケサル様注意スヘシ

鐫刻心得書

第一條

凡ソ銅版ハ藥蝕法針鐫法寫真法ノ三類トシ目下藥蝕法ヲ多ク用ユレトモ漸々針鐫法ニ改正シ傍ヲ寫真法ヲ用ユヘキモノトス

第二條

銅鐫ヲ命セラレタルトキハ其淨寫圖版下圖ノ二種ヲ接受シ墨ヲ點シ或ハ汚物ニ觸レ或ハ折損セサル様注意シテ丁寧ニ取扱フヘシ
但原圖ハ圓木ニ卷キテ目前ニ橫架シ見合ノ便ニ供スヘシ

第三條

銅版ヲ受取リタルトキハ先ツ版面ノ水平ナルヤ否ヤ且點隙及ヒ瑕疵ノ有無ヲ檢シ良品ト認ムルトキハ縱磨橫磨ノ區別ヲ記シ刷版掛ヲシテ研磨セシムヘシ出來ノトキハ先任ノ鐫刻掛員之ヲ檢査シ若シ不充分ナルトキハ之ヲ反

復研磨セシムヘシ尤モ鑄刻至急ヲ要シ或ハ補刻スヘキ圖ノ銅版ハ鑄刻掛自カラ之ヲ研磨スヘシ

第四條

銅鑄ニ著手スルトキハ淨寫圖ニ比較シ一器ノ定規ヲ以テ幾何ノ法ヲ施シ輪廓經線羅鍼形燈臺光線分界海里尺等ヲ鑄刻スヘシ決シテ版下圖ヨリ模寫鑄刻スヘカラス

但鑄刻成ルトキハ其版ノ裏面ニ何號定規ヲ用ヒタル旨ヲ刻スヘシ

第五條

前條ノ業終リタルトキハ其銅版面ニ版下圖ヲ貼付スヘシ尤モ之ヲ貼付スルニ當リテ版面ノ諸線ト版下圖ノ諸線ト吻合スル様ニ注意スヘシ若シ其吻合セサルハ寒暑乾濕ニ感シ紙面漲縮ノ變アルモノナレハ宜シク氣候ヲ察シ適宜ノ度ヲ見テ之ヲ貼付スヘシ

第六條

銅版面ニ線跡或ハ字跡ヲ映出スルハ最モ緊要ナル事業ニシテ濕氣ニ觸ルトキハ誤差ヲ生スルカ故ニ雨天ニハ此業ヲ施サ、ルヘシ

第七條

海岸線ハ映出シタル線跡ニ沿フテ鑄刻スヘシト雖モ時々淨圖ト照合シ微差ナキ様ニ注意スヘシ

第八條

水深ノ數字ハ映出シタル字跡ニ鑄スヘシト雖モ字形ノ大小及ヒ直斜等務メテ同一ニナシ脱位或ハ誤字ナキ様每字淨寫圖ト比較スヘシ

第九條

文字ハ和漢英共ニ活字版下ヲ映出シテ刻スヘシト雖モ誤字ナキ様淨寫圖ト比較シ題號其他活字ノ適宜ナルモノナキトキハ版下圖ニ違ハサル様ニ刻スヘシ

第十條

沙點ノ疎密ハ製圖例式ニ倣ヒ淨寫圖ト比照シ緻密ニ鑄刻スヘシト雖モ港灣島嶼其他ノ名稱ヲ記スルニ障礙トナラサル様注意スヘシ

第十一條

山脈ハ淨寫圖ニ比照シ濃淡疎密適宜ノ度ニ鑄刻スヘシ

但山名竝高度ノ數字或ハ海上ヨリ目標トナルヘキ物體樹木等ニ混淆セサル様注意スヘシ

第十二條

對寫圖ハ形狀遠近距離等總テ淨寫圖ニ倣ヒ務メテ眞形ニ異ナラサル様鑄刻スヘシ

第十三條

鑄點器械ハ務メテ鄭重ニ取扱ヒ之ヲ使用スルトキハ先ツ綿密ニ掃除シ運轉ニ妨害ナキ様整置シ又版面ニ紙ヲ貼付スルニハヨク密著セシメ丁寧ニ使用スヘシ否ラサレハ點線ニ不同ヲ生シ終ニ該版ヲシテ廢物ニ歸セシムルヲ以

テ決シテ疎略ニスヘカラス

第十四條

改正或ハ補刻ヲナスニハ諸點線及字體ヨリ諸物體ニ至ルマテ總テ最初ニ刻シタル其圖ノ形狀ト同様ニシ目立タサル様鑄刻スヘシ

但改正鑄刻ノ際其改正スヘキ部分ヲ磨剝シ或ハ鑿除シテ填補シ及裡面ヨリ擊出ス等ノ業ハ該鑄刻員自ラ行フヘシ

第十五條

凡ソ銅版ハ棚ヲ設ケテ其上ニ整置スヘシ尤モ大形ニテ棚上ニ置キカタキモノハ板ヲ以テ豎ニシキリヲ作り其中ニ立テ置クヘシ

第十六條

石版ハ至急ヲ要スル圖或ハ小形ノ圖ニ用ユルモノニシテ映寫直寫ノ二法ヲ施スヘシ尤モ執業ノ心得ハ銅鑄ニ準ス

刷版心得書

第一條

凡ソ銅版ハ版面ヲ磨滅スルノ患ヲ免カレンカタメ務メテ鄭重ニ取扱ヒ可成
平面ニ置キ印刷著手ノトキハ唯タ油液ヲ以テ淨拭シ決シテ磨粉ヲ用ユヘカ
ラス

但新版ニハ必ス油燒ノ法ヲ施スヘシ而シテ鑄刻ノ際假ニ著ケタル點線等
ノ痕跡或ハ微細ノ瑕疵ヲ消滅スルカ爲メ磨粉ヲ用ユルハ妨ケナシトス

第二條

印肉筧ノ刃磨損シテ凹凸ヲナシ或ハ厚薄不齊ノトキハ印肉ヲ塗ルノ際爲メ
ニ版面ヲ軋リテ線痕ヲ著ケ瑕疵ヲ與フルヲ以テ終ニ該版ヲ廢物ニ歸セシム
ルモノナレハ先任者ハ常ニ注意シ印刷ノ際篤ト其品ヲ檢シ不正ナルモノハ
削平シテ用ユヘシ

第三條

印刷紙ハ先ツ其質ヲ檢シ氣候ノ寒温ニ從ヒ湯或ハ水ニテ充分ニ濕シ適度ノ
時間ヲ經テ用ユヘシ若シ俄ニ濕シタルヲ用ユルトキハ印肉ノ散漫スルノミ
ナラス刷成ノ後其紙漲縮スルヲ以テ最モ此ニ注意スヘシ
但至急ヲ要スル時ハ此限ニ非ス

第四條

拭布ハ若シ塵沙等ノ附著スルトキハ拂拭ノ際版面ニ瑕疵ヲ與フルモノナレ
ハ丁寧ニ淨洗シタル後用ユヘシ

第五條

古布並反古紙ノ印肉ニ汚染シタルモノハ火氣ヲ引クノ恐アルヲ以テ常ニ場
所ヲ定メ置キ日々土中ニ埋了スヘシ

第六條

印刷後ノ銅石版ハ油液ヲ用ヒテ淨拭シ印肉ノ一點モ鏤痕ニ停溜セサル様丁
寧ニ拭ヒ去リ然ル後用度掛ニ返還スヘシ尤モ石版ハ淨拭ノ上護謨ヲ塗り置

クヘシ

第七條

印肉ヲ製造スルニハ其料品ノ良否並分量ハ勿論煉合ノ適否ヲ検査スルコト
緊要ナレハ煉製シタルトキハ布ニテ之ヲ漉シ純粹ナラシムヘシ若シ此分量
及煉合ノ度不充分ナルトキハ印刷シタル後其紙面ニ印肉散漫スルカ故ニ先
任者ハ常ニ諸員ヲ監シ注意シテ煉製セシムヘシ

第八條

石版ヲ印刷器ニ据付ケルノ際疎略ニスルトキハ爲メニ該版ヲ破壊スルモノ
ナレハ其裏面ト敷紙トノ間密著シテ動搖セサル様最モ注意スヘシ若シ石ノ
性質ニ依リ自ラ破開シタルトキハ速ニ課長ニ申出スヘシ

出測諸品定表

第一 測器類

測器類	大測	中測	小測	記事
可搬子午儀	一	〇	〇	
記時儀	一	〇	〇	
經線儀	三	二	一	
恒星時經線儀	一	〇	〇	
經緯儀	大中小 三	中小 二	小 一	大測ニ可搬子午儀ヲ携行スルト キハ中小ノ内一器ヲ減ス
測天六分儀	一	一	一	
同臺	一	一	一	
水銀盤	一	一	一	

第二 雜品

自記驗潮儀	海底溫度儀	畫圓規	長杆規	三角定規	鐵製定規	真鍮定規	圖引道具	木製分度儀	全圓分度儀	端船羅鍼
一	一	一	一	大小五	大小二	三尺一	大小五	二	一	三
○	一	一	一	大小四	大小二	三尺一	大小四	二	一	二
○	一	○	一小	大小二	一小	一尺一	大小二	一	一	一

三稜羅鍼	山測風雨鍼	圓形風雨鍼	雙眼鏡	望遠鏡	皮尺	量鏈	三杆儀	八角時計	鍾測時計	甲板時計	袖珍六分儀	鍾測六分儀
二	一	二	四	大小二	一	一	三	三	四	一	二	七
一	○	二	三	一小	一	一	二	二	三	一	一	五
一	○	一	二	○	一	一	一	二	二	一	一	三

圖板	野幕	鉛臺	檢潮燈	夜測燈	顯微鏡	捻拔	文鎮	鎌	鉞	鋸	鋸	鋸
八	二	一	一	五	二	一	三 <small>大小</small>	二十	四	四	一	二百
六	一	一	○	三	二	一	二 <small>大小</small>	十五	三	三	一	二百
二	○	一	○	二	二	○	一	十	○	一	○	五十

小	槌	標旗			投鉛索			投鉛			驗潮標	大測
		小	中	大	小	中	大	小	中	大		
三	四	二十	九十	六十	二百	三百	五百	三	三	一	二	中測
二	三	二十	六十	四十	百六十	二百	三百	二	二	一	二	小測
	一	二十	四十	五	百二十	百	○	二	一	○	一	記事

圖紙	全大		檢潮表	同附屬簿	太陽兩等高度推算簿	南星緯度推算簿	極星緯度推算簿	原點推算簿	投鉛簿	檢潮簿	橫手帳	平手帳	大測中測小測記事
	八	二											
	六	一	一	一	一	二	一	百枚一	四	六	八	五	
	二	〇	一	一	一	一	一	五十枚一	二	四	三	三	

第三帳簿類

墨汁壺	錘測用滑車	大硯	朱硯	燭臺	羽箒	糊刷毛	墨壺	硯 <small>函並三水入墨小刀錐トモ</small>	二分一	
									四分一	四分一
二	三	一	一	三	三	二	三	二	十	十
一	二	一	一	二	二	二	二	一	八	八
〇	一	〇	一	一	一	一	一	一	四	四

洋蠟燭	三百	百五十	百
ゴム	十四	十	五
ランプ糸眞	三百	百五十	五十一尺ヲ以テ一トス
投鉛索符用革	一	一	
投鉛用グリース	五	三	一
映臨布	二十	十五	十一尺ヲ以テ一トス
映臨紙	三十	二十	十同
石灰	八十	五十	二十 以下七廉測地ニ於テ適宜ニ求ム一斗入一俵ヲ一トス
桶	四	三	一
柄杓	八	六	二
箒	十二	九	三
標竿	百七十	百二十	七十
標杭	百七十	百二十	七十

第五 圖書類

標杭	小	四百五十	三百二十	百九十	
藁繩	三百四十	二百四十	百五十	尋ヲ以テ一トス	
朱墨	一	一	一	尋ヲ以テ一トス	
麻索	四千五百四十三	二千二百四十	千九百五十	尋ヲ以テ一トス	
星曆	二	一	一		大事
測量推算表	七	五	三		
航海書	二	一	一		
天 ^{シヨフ子} 文書	一	一	〇		
英和辭書	一	一	一		
量地括要	一	一	一		

水路提要	一	一	一
弧弦真數表	二	一	一

- 一 艦船ニテ出測スルトキハ該艦長ニ協議シ成ルヘク該艦船定備ノ測器類ヲ用ユヘシ
- 一 小測ニ在テハ其種類ニ隨ヒ測量課長ノ見計ヲ以テ定數ノ中若干分ヲ減少スルコトアルヘシ
- 一 消耗ニ屬スル諸品ハ其測地ニ隨ヒ局ヨリ携行スルモ或ハ測地ニテ購求スルモ妨ケナシトス
- 一 地誌海圖等ハ其測地ニ隨フテ携行スヘキモノナルヲ以テ其際申出許可之上携行スヘキモノトス

鎮守府所轄艦出測規則

沿革史附錄上四三八頁至四四二頁ヲ見ルヘシ

海圖編製法

種類及體格

- 第一 海圖ハ之ヲ三個ノ種類ニ分ツ即チ第一種ヲ精測圖トシ第二種ヲ概測圖トシ第三種ヲ略圖トス
- 第二 海圖ハ之ヲ五個ノ體格ニ分ツ即チ第一格ヲ航海全圖トシ第二格ヲ海岸全圖トシ第三格ヲ海岸概圖トシ第四格ヲ海岸圖トシ第五格ヲ港泊圖トス
- 第三 第一種圖ハ測天、大三角、錘測、海岸測、檢潮ノ五術ヲ精密ニ施シテ測畫シタルモノトス
- 第四 第二種圖ハ前五術ヲ施シテ製スル所ナルモ其施術ノ稍粗ナルモノトス

- 第五 第三種圖ハ羅鍼盤等ヲ以テ其位置方向ヲ略測シ概ネ觀測ヨリナリタルモノトス
- 第六 第一格圖ハ一葉或ハ數葉ヲ以テ一洋海或ハ一大洲ノ全海岸ヲ示スモノトス而シテ其尺度ハ其經線一度ヲ一英寸五ヨリ三英寸ニ至ル長サニ作ル
- 第七 第二格圖ハ一葉或ハ數葉ヲ以テ一洋海或ハ一國海岸ノ一大部ヲ示スモノトス而シテ其尺度ハ其經線一度ヲ八英寸ヨリ十二英寸ニ至ル長サニ作ル
- 第八 第三格圖ハ一海灣或ハ一國海岸ノ大部ノ概勢ヲ示スモノトス而シテ其尺度ハ其經線一度ヲ六英寸ヨリ十英寸ニ至ル長サニ作ル
- 第九 第四格圖ハ一地方海岸ノ一部ヲ示スモノトス而シテ其尺度ハ其經線一分ヲ零英寸八ヨリ一英寸六ニ至ル長サニ作ル
但經緯線ヲ分割セスシテ尺度ヲ掲載スルモノニアツテハ其緯尺一分ヲ

- 一英寸ヨリ二英寸ニ至ル長サニ取ル
- 第十 第五格圖ハ一港灣ノ形狀ヲ詳示スルモノトス而シテ其尺度ハ一海里ヲ二英寸ヨリ六英寸迄ノ長サニ作ル
但非常ノ小港灣ニアツテハ六英寸以上ノ長サニ作ル
- 第十一 第一格ヨリ第三格ニ至ルノ圖ハ必ス漸伸法ヲ以テ編成シ其經緯線ヲ分割ス
- 第十二 第四格圖ハ其經緯線ヲ分割スルトセサルトノ二種アリ而シテ其經緯線ヲ分割スルモノニアツテハ第十一項ニ異ナラスト雖モ亦中分法ヲ用ユルコトアリ又其分割セサルモノニアツテハ必ス經緯ノ兩尺度ヲ掲ク
- 第十三 第五格圖ハ經緯線ヲ分割スルコトナクシテ其尺度モ亦距離尺ノミヲ掲クルヲ例トス然レトモ其測域ノ廣濶ニ渉ルモノニハ經緯兩尺ヲ掲ク

尺度

第十四 第四格圖へ掲クル尺度ハ經緯兩尺トモ各六分其左端ノ一分ヲ緯度尺ハ十鏈ニ經度尺ハ六十秒ニ分ツヲ掲クルヲ例トス然レトモ其尺度ノ過少ナルモノニアツテハ各八分若シクハ十一分ヲ掲ケ其過大ナルモノニアツテハ各三分若シクハ四分ヲ掲ク附錄尺度掲載例ヲ看ヨ

第十五 第五格圖へ掲クル尺度ハ二海里ヲ掲クルヲ例トス然レトモ其尺度ノ小ナルモノニアツテハ三海里ヲ掲ケ其大ナルモノニアツテハ十鏈即チ一海里若シクハ五鏈ヲ掲ク又其兩尺ヲ掲クルモノニアツテハ緯度尺二分經度尺一分鏈及ヒ秒ニ分ツコト前項ニ同シヲ掲クルヲ例トス然レトモ其尺度ノ小ナルモノニアツテハ各三分ヲ掲ク附錄尺度掲載例ヲ看ヨ

圖紙板ノ大小

第十六 圖紙板ハ全紙板二分一板四分一板八分一板ノ四種ニ之ヲ分ツ然レトモ全紙板ヨリ大ナルモノニ至リテハ其限ヲ定メス

- 第十七 全紙板ハ縱三尺三寸横二尺三寸トス
- 第十八 二分一板ハ縱二尺三寸横一尺六寸五分トス
- 第十九 四分一板ハ縱一尺六寸五分横一尺一寸五分トス
- 第二十 八分一板ハ縱一尺一寸五分横八寸二分五厘トス

體裁

第廿一 凡ソ海圖ハ船内ニ於テ使用スルモノナルヲ以テ其紙幅過大ナルトキハ其不便少ナカラス故ニ成ルヘクハ右四種ノ定板ヨリ大ナル紙幅ニ規畫セス

第廿二 凡ソ海圖ハ廣ク内外海客ノ使用ニ供スルモノナルヲ以テ外客ノ便ヲ計ラン爲メ其標題地名等ヲ始メ他何ノ記事ニ係ハラス都テ該圖中ニ掲載スル諸記事ハ各其例式ニ準ヒ成ルヘク和英兩文ヲ以テ諸ヲ記ス

第廿三 海岸線陸畫等ハ必ス定式ノ圖符ニ據リテ之ヲ記入ス

第廿四 水深、山嶽、島嶼、露岩ノ高低、羅鍼偏差ノ度分等ノ數字ハ都テ亞刺比亞

數字ヲ以テ之ヲ記ス

第廿五 用尋ノ水深分數ハ四分三、二分一、四分一ノ三種ニ定メ之ヲ十四尋以下ニ用ユ

但其十尋以上ニハ二分一ノミヲ用ユ

第廿六 用尺ノ水深ニハ分數ヲ用キス

第廿七 燈臺、暗礁、底質等ヲ都テ略語ヲ以テ記入スルトキハ必ス定式ノ略語ニ據リテ之ヲ記入ス

第廿八 港灣、岬角、島嶼、海峽、市街、村落等ノ名稱ハ其向キ水平ニ横記シ其下ニ並行シテ英文ヲ記スヲ例トス然レトモ岬角名ノ如キハ海岸方向ニ隨ヒ和文ヲ縦テニ英文ヲ斜メノ向キニ記スコトアリ而シテ港灣、海峽、島嶼、暗礁名ノ如キモ亦錘測數字ノ配置等ニヨリ和文英文共又斜メニ記スコトアリ

第廿九 前項ノ諸名稱ニ從來云ヒ來リタル著シキ古名別名アリテ之ヲ并記

スルトキハ之ニ括弧ヲ附シテ記スヲ例トス

第三十 河流、道路、鐵道等ノ名稱ハ各其向キニ隨ヒ之ヲ記シ其和英兩文ヲ兩邊ニ分記スルヲ例トス

第三十一 岬角、灣澳、海峽等ハ其大小ニヨリ山嶽ハ其望形ノ顯著不顯著ニヨリ其名稱ヲ記スノ文字モ亦邦字ハ大小ヲ以テ英字ハ異體ヲ以テ各之ヲ區別ス

第三十二 州名ト郡名ノ別又市街ト村落ノ別ハ其名稱ヲ記ス文字ノ大小又ハ異體ニヨツテ之ヲ區別ス

但英文ノ市街名ハ「カピタル」體ヲ用キ其村落名ハ「イタリック」體ヲ用ユ

第三十三 灣澳ノ名稱ハ之ヲ其灣門ニ海峽ノ名稱ハ之ヲ其中間ニ各之ヲ記スヲ例トス然レトモ錘測數字ノ密布等ニヨリ記ス場所ナキトキハ適宜ノ位地ニ記ス

第三十四 凡ソ港灣ノ潮候時干滿差ハ第四格及ヒ第五格圖ニ於テハ之ヲ題

記中ニ記シ第三格以上ノ圖ニ於テハ之ヲ其各港灣外鍾測數字ノ間ニ記
ス

燈臺

第三十五 光色ハ著色ヲ以テ之ヲ區別シ射光ノ眞方位ハ燈火ヨリ線ヲ引キ
テ之ヲ示シ而シテ其各線傍ニ其方位度數ヲ記ス

但此ノ方位ニハ和文ヲ用キス

第三十六 經緯度、形質、燈明ノ等級、發光ノ差別、海面上高サ、光達距離等ノ記事
ハ第四格及ヒ第五格圖ニ於テハ其餘白便宜ノ處ニ之ヲ掲ケ第三格圖以上
ニ於テハ發光ノ差別、海面上高サ、光達距離ヲ該燈傍ニ記スヲ例トス然レト
モ若シ其圖ニ餘白アルトキハ諸件ヲ洩スナク立表ニシテ之ヲ掲ク

距離方向

第三十七 圖中對寫圖指導線等へ掲クル距離方向ハ距離ハ海里、方向ハ羅鍼
ニ取リテ之ヲ掲クルヲ例トス若シ方向ヲ掲クルニ眞方向ヲ掲ケサルヲ得

サル場合アリテ之ヲ掲クルトキハ之ニ括弧ノ註ヲ附ス

對寫圖

第三十八 對寫圖ノ記事ハ和英兩文ヲ掲クル論ナシト雖モ若シ場所ナキト
キハ英文ノミヲ掲ク

第三十九 對寫圖中ノ山峯ニ其名アルモノハ之ヲ掲クル論ナシト雖モ亦其
高サアルモノハ必ス之ヲ掲ケ而シテ若シ何レヲ掲クルカニ至テハ其山名
ヲ掲クルヨリモ高サヲ掲ク

題記諸件

第四十 測員ノ姓名ハ和文ハ少尉補以上英文ハ少尉以上ヲ舉ケ而シテ之ヲ
掲クルハ第四格及ヒ第五格圖ニ限リ第三格圖以上ニハ該測量艦ノ艦號或
ハ其ノ測量ノ國名ヲ舉ケテ之ヲ掲ケサルヲ例トス又小格ノ分圖等へハ其
主任者ノ姓名ノミヲ掲ク

但判任文官ト雖モ局長ノ見込ヲ以テ特別ニ掲スル事モアルヘシ

第四十一 潮勢過激ニシテ航過不容易ナル海峡ノ圖又暗礁淺灘等散布シテ出入不容易ナル港灣ノ圖等ハ其潮勢ノ記事及ヒ行船法程ヲ舉クルヲ例トス而シテ該圖中ノ餘白便宜ノ場所ヘ之ヲ掲ク

第四十二 標題及ヒ諸記事ハ成ルヘク格内ニ掲クルヲ例トス然レトモ若シ格内陸部ニハ陸畫海部ニハ鍾測數字各密布シテ餘白ナキトキハ格外ノ上部及ヒ左右兩部ヘ分チテ之ヲ掲ク 附錄標題例第號ノ如シ

出版取扱順序

第一條 凡ソ圖誌類ノ出版ハ總テ左ノ順序ニ遵フテ處辨スヘシ

第二條 圖誌類ヲ淨寫出版スヘキ旨局達アルトキハ用度掛ニテ受付ケ諸達留簿 第廿九號簿ニ書留メ原品ノ紙隅ニ何年何月何日出版達第何號ト朱書シ課長ニ差出シ同時ニ達書ニ其檢印ヲ受クヘシ

但本文現品局外ヨリ借受ケ等ニ關スルモノハ之ニ付箋シ本條ノ朱書

ヲナスヘシ

第三條 淨寫出版ニ附スヘキ圖類ハ都テ圖誌課長之ヲ熟閱シ不明瞭ノ廉アトキハ量地課長ニ質シ標題々記ノ位置及ヒ諸體裁確定ノ後製圖掛ニ淨寫ヲ命シ其圖名著手月日記事 局測編集覆版等ヲ云フヲ事業分掌簿 第甲一號ニ詳記スヘルシ

第四條 凡ソ製圖掛圖類ノ淨寫ヲ成就シタルトキハ一應其掛ニテ校正ノ上課長ニ差出スヘシ

第五條 製圖掛ヨリ成就ノ淨寫圖ヲ差出シタルトキハ課長ハ校正員ニ命シテ其和洋諸文字ヲ校正セシメ若シ謬誤アルトキハ該淨寫員ニ正誤ヲナサシメ而後之ヲ校閲シ檢印ノ上用度掛ニ命シテ校正ノ爲メ量地課ヘ回付セシムヘシ

但誌類ノ插圖報告ノ附圖類ハ其主務者ニ校正セシムルコトアルヘシ

第六條 量地課ヨリ校正ノ圖類ヲ返付シ用度掛之ヲ課長ニ差出シタルトキハ課長細閱ノ上檢印ヲシテ之ヲ局長ニ差出スヘシ

第七條 局長一閱ノ後改正ノ廉ヲ示サル、トキハ速ニ之ヲ改正シ其檢印ヲ受ケ其版刻ノ圖名ト著手月日ヲ事業分掌簿第一號ニ記載シ刻成期日ヲ豫定シ之ヲ鑄刻掛ニ付スヘシ

但該銅石版ハ課長用度掛ヲシテ鑄刻掛ニ渡サシムヘシ

第八條 鑄刻掛ヨリ銅石版ノ刻成申告アルトキハ課長其圖ノ番號刻成年月日ヲ定メ及ヒ定價ヲ付シ各之ヲ諸圖出版簿第二號ニ登記シテ後之ヲ刻入セシメ出來ノトキハ之ヲ印刷檢印簿第七號ニ登記シ用度掛ニ付シ試刷ヲ取斗ラハシムヘシ

但插圖類ハ原價ヲ付シ第二號簿ニ記入スヘシ然レトモ之ヲ刻入スヘカラス

第九條 用度掛前條ノ取計ヲ命セラレタルトキハ速ニ其銅石版及用紙ヲ

刷版掛ニ付シテ其印刷ヲナサシメ之ヲ課長ニ差出スヘシ

第十條 用度掛ヨリ試刷ヲ差出シタルトキハ課長其淨寫ノ際ノ如ク校正手順ヲナシ而シテ誤刻等アルトキハ再ヒ原版ヲ主務ノ掛ニ付シテ正誤セシムルノ後又誤刻ナキトキハ之ヲ局長ノ一閱ニ供スヘシ

但誌類ノ插圖報告ノ附圖類ハ別ニ局長ニ告ケス直チニ第十三條ノ手續キヲナスヘシ

第十一條 局長査閲濟ニテ檢印アルトキハ速ニ原版ヲ下付シテ其布點ヲ主務ノ掛ニ命スヘシ

第十二條 鑄刻掛右ノ布點ヲ成就シテ原版ヲ差出シタルトキハ課長尙校閱ノ上試刷一葉ヲ印刷セシメテ謬誤ナキトキハ直チニ局長ニ差出シテ其檢印ヲ受ケ此試刷圖ハ之ヲ第一原備圖ニ編入セシメ此際其測量原稿ハ量地課其他ノ原稿ハ各主務之掛ニ送付スヘシ

第十三條 前條局長檢印濟ノトキハ速ニ用度掛ヲシテ其刷行定數ヲ印刷

上申送付簿第二十八號簿ニ記サシメ檢印ノ上更ニ局長ノ檢印ヲ受ケ然ル後其刷行定數ヲ印刷檢印簿第七號簿ニ記シ檢印ノ上該簿ヲ以テ其刷行ヲ用度掛ニ命スヘシ

但新版既版ニ拘ハラス銅版圖刷行ノ時ハ其ノ刷行ノ前後兩回必ス其版面ノ伸縮異動ノ有無ヲ検査スヘシ

第十四條 用度掛前條ノ刷行ヲ命セラル、トキハ刷行定數表ニ據リ其印刷紙數ヲ刷行紙受渡調査簿第二十號簿ニ記シ本版ト共ニ之ヲ刷版掛ニ送付スヘシ

第十五條 刷版掛用度掛ヨリ刷行紙受渡調査簿第二十號簿ニ副テ本版ト共ニ印刷紙ヲ送付シ來ルトキハ其印刷紙ノ記載數ト現數トヲ調査シ差違ナキトキハ捺印シテ該簿ヲ返付スヘシ

第十六條 右刷版掛ハ刷版著手ノトキ先ツ試刷一葉ヲ取り課長ノ檢印ヲ受ケ然ル後總刷行ヲナシ刷了ノトキハ其正刷誤刷トヲ分チ之ヲ用度掛ニ交

付スヘシ

第十七條 用度掛ハ之ヲ受ケテ每葉ニ検査シ表裝ノ定數ヲ表裝手ニ命シ其誤刷ノ分ハ課長ノ點檢ヲ受ケ塗抹シテ廢物トスヘシ

但插圖類ハ表裝ニ及ハス原價付ヲ添テ主刊員ニ送付スヘシ

第十八條 表裝手右ノ表裝ヲ了リテ其裝成圖ヲ用度掛ヘ差出シタルトキハ圖中ニ燈臺アルモノハ課長ノ手ヲ經テ製圖掛ニ其點色ヲ施サシムルノ後用度掛ハ印刷上申送付簿第二十號簿ニ其員數ヲ記シ課長ノ檢印ヲ得テ後局長ノ檢印ヲ受ケ之ヲ主務ノ課ニ送付シテ其請取印ヲ取ルヘシ

第十九條 第二條ニ依リ下付ノ出版原稿ハ課長其卷數或ハ番號及出版部數ヲ朱書シテ之ニ檢印シ本書ノ出版ニ係ル諸廉ヲ明示シ之ヲ主刊員ニ渡スヘシ

第二十條 主刊員ハ之ヲ請ケテ書類出版簿第十一號簿ニ記入シ本書ヲ活版師ニ付シ其體裁用紙ノ種類製本ノ模様插圖ノ有無等ヲ説明シ出版總費概算書

ニ出版期限ヲ記入シタル請書ヲ差出サシムヘシ

但其插圖アルモノハ活版師ニ付スルノ前之ヲ引拔キ何書何號入何部出版ト朱書シテ課長ニ差出スヘシ而シテ課長ハ第六條已下ノ手順ヲ施スモノトス

第二十一條 主刊員ハ右出版期限及費用書調成ノトキハ速カニ甲號雛形ニ準シテ其出版ノ事項ヲ記シ局長ニ届出テノ草案ヲ作り課長ニ出シ課長ハ之ヲ事業分掌簿^{第一號}ニ記入シ再ヒ主刊員ニ返シ該員ハ届出本書ニ課長ノ檢印ヲ得テ後之ヲ書類出版簿^{第十一號}ニ登記スヘシ

第二十二條 本省ヨリ内務省へ出版々權届濟ノ指令書庶務課ヨリ回付アルトキハ圖誌課長之ニ檢印シテ主刊員ニ右年月日ヲ書類出版簿^{第十一號}ニ記入セシメ庶務課ニ返付スヘシ

第二十三條 主刊員ハ活版師ヨリ試刷ヲ差出シタルトキハ綿密ニ交換讀合法ヲ以テ原稿ト比較シ其誤リアルモノハ正誤何項校正濟若シ改正ノ廉ア

ルトキハ改正何項ト竝朱書シテ之ニ檢印シ原稿ハ之ヲ留メ試刷ヲ返付スヘシ其再校ヲ要スルモノハ再校ノ節最初ノ試刷校本ヲ副へテ活版師ヨリ差出サシム此手續ニテ悉皆出來ノトキ出版年月ハ兼テ内務省へ届ケタル年月ヲ用ユヘシ

但内務省へ届ケサル襍誌表類ハ出版濟ノ即日ヲ以テ出版年月日ト定ムヘシ

第二十四條 右ノ試刷悉皆出來ノ節ハ一應原稿ト讀合ノ上誤リアルトキハ正誤表ヲ作り課長ノ檢印ヲ得テ之ヲ印行セシメ右出來ノトキ插圖アルモノハ之ヲ交付シ速ニ製本ニ取掛ラシム

但第十七條ノ通插圖代價書ヲ用度掛ヨリ請取リタルトキハ直ニ書類出版簿^{第十一號}第八欄ニ記入シ用度掛ノ檢印ヲ取リ置クヘシ

第二十五條 出版ヲ畢ヘタル原稿ハ何年何月何日出版ト稿本ノ左隅ニ朱書シ之ヲ圖書掛ニ送付スヘシ

第二十六條 右製本出來ノトキハ課長ニ申告シ課長之ヲ事業分掌簿第一ニ登記ノ後主刊員ハ速ニ活版製本決算明細書ヲ活版師ヨリ請取リ此ト插圖代價第十七條但トヲ合算シ計算課ト協議ノ上原價及ヒ定則ノ定價ヲ付シ各之ヲ書類出版簿第十一號簿ニ登記シ計算課長ト本課長ノ檢印ヲ取り而後局長ノ檢印ヲ受ケ左ノ雛形ノ刻印ト版權所有ノ印トヲ押捺シ之ヲ用度掛ニ送付シ第十八條ノ通り取扱フモノトス

年號何月何日
出版々權屆濟

其版權ヲ要セサルモノ
ハ版權ノ二字ヲ削ル

第二十七條 主刊員ハ右ト同時ニ計算課ニ備ヘタル圖誌課諸件申出檢印簿ニ記載例ノ通り活版費ヲ登記シ之ニ檢印シテ課長ノ檢印ヲ受ケ然ル後出版申出檢印控簿第十二號簿ニ控ヘ割印ノ上尙自己ノ印ヲ捺シテ計算課へ返付スヘシ

第二十八條 右出版費請取ノ爲メ活版師ヨリ勘定書差出シタルトキ主刊員ハ書類出版簿ノ第六欄ニ照合ノ上之ニ檢印シ課長ノ檢印ヲ得テ之ヲ本人

ニ渡スヘシ

第二十九條 臨時局達諸課ヨリ上申許可ヲ經タル照會ニ依リ既版ノ圖ヲ刷行スルモノ、圖ハ第十三條書ハ第十九條已下ノ例ニ從フモノトス

附則

第一 水路報告ノ類ハ日誌ノ類即チ内務省出版條例附則末項ト同類ニ付出版ニ關シ本省へ届出ノ手順ニ及ハストス
第二 其出版取扱ハ内務省へ届出サル書類ニ付出版著手ノ届及ヒ版權印定價ヲ付スルニ及ハス而シテ其他ノ手順ハ本則ニ異ナルナシ

甲號

何書出版著手御届

一何書何々

中大形 版權(有無)

此書ハ何誰著編輯何々ノ事ヲ記載(反譯ナレハ此書ハ以下)論述(ニ代ルニ下文ヲ用フ)何年何國何氏著何ト題シ何々之事ヲ記載(反譯ナレハ此書ハ以下)論述(ニ代ルニ下文ヲ用フ)セル原書ヲ何誰翻譯ニ係ル

宿直心得書

第一條 海軍假條例第七條ニ依リ武官七等以下文官八等以下十七等以上ニテ一名等外吏及ヒ月給金拾五圓以上ノ雇一名ト都合二名ニテ輪番宿直スヘシ尤モ臨時一名或二名ヲ増員スルコトアルヘシ

但判任以上兩名宿直スル共等外吏雇等兩名ニテ宿直不致様注意スヘキ事

第二條 前條ノ如ク更番宿直ヲ務ムヘシト雖モ他人ニ難換事務ヲ爲ス者アルトキハ局長ノ命ニ依テ一時延直或ハ除直スルコトアルヘシ

第三條 宿直員ハ海軍條例第八條ヲ遵守シ且次ノ各條ニ準據シテ務ムヘシ

第四條 當直ノ者ハ定時出勤用使迄當直ノ人名ヲ宿直日記ニ記シ正午迄ニ局長ヘ差出シ諸員退散後ハ一切ノ公務ヲ引受ケ翌朝庶務課員出勤ノ節之ヲ引繼キ當直日記ニ其檢印ヲ得ヘシ

但休日前日ノ當直ハ其休日當直ノ者兩名共出頭ノ上引繼キ其請人ハ當

直日記ヘ檢印シ翌日本文ノ通り庶務課員ニ引繼クヘシ

第五條 各課諸員退出ノ節ハ左ノ印箱等ヲ其主務ノ課ヨリ受取り堅ク保護シ翌朝出勤ノ節相渡スヘシ

一局長ノ印箱 一副長ノ印箱 一局印箱

一各課鍵箱 一郵便電信料 一構内諸門ノ鍵箱

一金錢出納簿入ノ「カバン」

第六條 諸員退出後ハ用使ヲシテ堅ク戸締ヲナサシメ各室並ニ倉庫其外出入口等ヲ巡檢スヘシ且測器圖書簿冊等取亂シアルトキハ取纏置翌日其課長ニ申出ツヘシ

第七條 回達録謄寫ノ事故ハ左各項ニ照準シ取扱フヘシ

第一項 回達録ニ記載スルモノハ一般ノ布達並通牒等各局ニ關スルモノ

トス但番號ヲ記載ノ前二行ヲ明ケ番號ノ下ニ到來ノ月日時刻ヲ記入スヘシ

第二項 局長並勅任官へノミ關スル回達ハ寫取ノ上局長へ通報スヘシ至急ヲ要セサル件ハ翌日庶務課へ引送ルヘシ

第三項 卿ヨリノ照會下問其他回達タリトモ不發及ヒ秘密ニ涉ル件ノ回達ハ各局ニ關スル分ト雖モ別紙ニ謄寫シ置キ翌日庶務課長出局ノ上引渡スヘシ

第八條 諸文書ノ當局名ヲ署セシモノ到達セシトキハ封ノ儘請取置キ其到達ノ時限及仕出元ノ名ヲ當直日記ニ掲載シ翌朝庶務内事掛出頭ノ上引渡スヘシ

但シ局名宛ノ電報ハ申ニ及ス急至急ノ脇書アルモノハ庶務課長江又課長名或課名宛ニテ前件ノ如キハ其主務官へ封ノ儘送達シ當直日記へ其旨ヲ掲載スルコト本文ノ如シ

第九條 局長其ノ他官名宛ノ分モ前條ノ如ク封ノ儘ニテ取扱フヘシ但書前同斷

第十條 郵送受取函ハ午前七時正午及ヒ午後六時ノ三度ニ到來ノ有無ヲ取調ヘシ

但正午ハ休日ニ限ルモノトス

第十一條 祝日參賀祭日參拜等其他何事ニ拘ハラズ奏任以上ノ身分ニ關スル省達等ヲ受取リタルトキハ速ニ局長始メ奏任官ノ向へ通知スヘシ但判任等外迄ニ關スル事件ハ本文ニ準シテ取扱フヘシ

第十二條 郵便電信發遣取扱ノ爲メ毎日該費豫備トシテ金五圓ヲ計算課ヨリ當直員江可相渡ニ付右受取之上拂出ノ有無ニ拘ラス其翌朝同課江返付スヘシ

第十三條 宿直ヲナストキハ用使以下ヲ管督シテ用便ヲナサシメ且其勤惰ニ注意スヘシ

第十四條 門番大小門ヲ閉鎖スルトキハ其都度直ニ鍵ヲ相預リ翌日日出ニ相渡スヘシ

但夜中公用ニテ外來ノ者アルトキハ其時々鍵ヲ相渡スヘシ

第十五條 日没後一名宛半夜交代ヲ以テ用使一名ヲ引連レ局内構内トモニ
巡檢取締ヲナスヘシ

但巡檢ノ上倉庫其他故障ノ有無トモ翌朝庶務課江書類等引繼ノ節通報
スヘシ

第十六條 非常變災之節ハ第一表門並四周ノ塀垣ニ注意シ外人ノ猥ニ入ラ
サル様ニシ且當局員ハ勿論他局員其他ノ駈付タル者ハ無洩其姓名ヲ記載
シ又ハ局中火ノ元ニ注意スヘシ

但局員出局間ニ合ハサル程ノ急變ニ遇フトキハ第一諸帳簿ヲ片付倉庫
ノ締リ方ニ注意スヘシ

第十七條 局内ニ於テ、ハダカ火ヲ禁シ且烈風ノ節ハ湯呑所其他火ノ元ニ注
意スヘシ

第十八條 翌朝ニ至リ圖誌課員並整什課修理掛出勤ノ節ハ立會ノ上用使ヲ

シテ其時刻ヲ時刻表ニ登記セシメ勤惰簿ト共ニ之ヲ庶務課員ニ引繼クヘ
シ

第十九條 合番ノ者萬一急病ニ罹ルトキハ速ニ醫員ヲ召ヒテ治療ヲナサシ
メ本人ノ歸宅ヲ要スルトキハ速ニ歸宅セシメ而ル後次日ノ當直員ヲ呼出
シテ之ニ代ラシムヘシ

第二十條 親戚ノ者不得已事故アリテ面談ヲ請フトキハ合番ニ斷リ玄關ニ
テ面談致スヘシ

但親戚ノ外ハ何人ニテモ引入ル、コトヲ禁ス

明治十七年

第一號(二月)

可搬子午儀兩器外國ヨリ御購求相成度儀ニ付上請

ダビソン氏裝置

一可搬子午儀

兩器

此購求金額壹器ニ付運送並諸手數料ヲ込メ

凡金千八百圓ツ、即チ金三千六百圓

ダビソン氏可搬子午儀ハ通常ノ該儀ト異リ其用天頂鏡ヲ兼ネ最モ地測上ニ缺クヘカラサルノ良器ニシテ現時北米合衆國海岸測量局ニ於テ用フル所ノ者ニ御座候乃チ其利用タル一ハ時辰ヲ測定シテ以テ電信經差ヲ確定シ一ハ德爾忽法ヲ用ヒ緯度ヲ測定スルニ足り而シテ各皆系差百分秒ノ十ヲ出テサルノ成果ヲ世上ニ信用セシムルニ足レリ實ニ簡便ニシテ精密ノ測器ニ御座

候故ニ其事由上陳ノ末御許可ヲ得テ去ル明治七年金星經過測量ノ爲メ我國ニ派出シタル米國海岸測量局副長ダビソン氏ニ委囑シ壹器ヲ購求シ爾來我海軍觀象臺ニ於テ數年實測用ニ假備候處其後復更ニ大子午儀御購入相成候ニ付此可搬子午儀ハ一昨十五年來沿海測量用ニ供シ從ツテ該測量ノ成果愈精密ナル大測ヲ施行シ得ルノ緒ニ就キ大ニ海客ヲ益スルノ事漸ク擧クルニ至リ候然ルニ去ル十五年中本邦沿岸測量ノ上請御許可相成候ニ付テハ年々二伍ノ測員ヲ派出セシメサルヘカラス而シテ其測量タルヤ各伍沿海數十里ニ互ルノ大測ヲ施行スル儀ニ付測器モ亦精且密ナルモノニアラサレハ其功難成候爰ニ幸ヒ曩ニ觀象臺ニ假用シタル可搬子午儀一器有之ヲ以テ一伍ノ測用ニ供シ得ルモ他ノ一伍ニハ充ツルモノ之レ無キ爲メ測業上最大主眼タル經緯度測ニ於テ其精測ヲ表スルノ道ヲ缺キ其成ル所ノ圖ニモ亦或ハ確信ヲ缺ク所ナキヲ保セス實ニ遺憾ノ儀ニ御座候依テ今般該儀二器ヲ購入シ一器ヲ前述ノ缺ニ充テ一器ヲ豫備トシテ或ハ海外ノ地ニ測量ヲ要スルトキ

此日誌ハ次
ノ令示ヲ遵
奉シ勉メテ
明細ニ記載
スヘキ者也
海軍省

皇 艦 號 航 泊 日 誌

始 于 明 治 年 月 日
終 于 明 治 年 月 日

機 關

集合力 幾馬 製造人
種類
居著年月

新タニ全修理ヲ加ヘタル年月
修覆一般ノ模様

鐵製或銅製 製造人

管罐或筒罐

製造年月

新タニ全修理ヲ加ヘタル年月
保存年月

種類 製造人

修覆一般ノ模様

全修理ヲ要スル年月

外車輪 或暗車
石炭貯蓄 之斤量
其他所ニ於テ若干

艦長

ノ臨時用ニ備置度候乃チ右精密ナル測量ヲ施スコトハ艦船航海ノ安全ヲ計
ルニ外ナラサル儀ニ付何卒格別ノ御詮議ヲ以テ右購入ノ儀御許容相成該金
額來十七年度ニ於テ艦船維持費ノ内ヨリ別途ニ御下渡シ相成度此段上請仕
候也

明治十七年一月十四日

海軍卿川村純義殿

水路局長海軍少將 柳 檜悦

書面可搬子午儀兩器ノ内其局十七年度經費内ヲ以指線一器購入可致事

明治十七年二月四日

省 印

縦一尺二寸一分大ノモノ

令示

- 第一 此日誌ハ連日正午過ぎ 毎週一回ハ艦長之ヲ閱シテ其記事ヲ検査シ又別ニ副本ヲ作りテ之ヲ寫シ定碇泊場ニアル者ハ毎三ヶ月遠隔地ニアル者ハ歸著ノ日艦長檢印之上所轄長官ニ差出スヘシ
- 第二 羅針ノ鐵差ヲ測定スルコトハ航海第一ノ要務ナレハ宜シク羅針鐵差新篇ニ依テ之ヲ測定スヘシ乃チ外國地方ニ到達セシ時ハ必ス船體ヲ旋轉シテ之ヲ定ムルコト勿論ニシテ假令内國ニアルモ毎年一回必ス之ヲ測定スヘシ
- 第三 外國内國ヲ問ハス之ヲ測定スルコトキハ本誌ニハ勿論毎三ヶ月差出スヘキ所ノ副本ニモ其鐵差ヲ必ス登記スヘシ
- 第四 艦内物品ノ貯蓄場等模様替シタルトキハ鐵差ヲ測定シタルトキノ如ク必ス其圖面ヲ製シテ本誌并ニ副本ニ挿入スヘシ
- 第五 何地ヲ開ハス凡本艦投錨シタルトキハ該地ノ岬角或島嶼等著シキニ物體ヲ撰ヒ其交方向ヲ必ス測リ記事ノ欄ニ記シ置クヘシ又該地未タ精測ヲ經サルノ港灣等ナレハ必ス鍾測ヲ施シテ其水深ヲ探リ且該港灣ニ係リタル各記事并ニ其錨地ヲ示スニ足ルヘキ略圖ヲ製シテ之ヲ送付スヘシ
- 第六 航海中潮流瓶子ノ漂ヒ浮フヲ見認メタルトキハ直チニ拾ヒ上ケ該瓶中ノ紙上ヲ閱シテ其記事ヲ寫シ取り更ラニ其餘白ヘ本艦名并ニ所在ノ經緯度及月日ヲ記シ

縦一尺二寸一分大ノモノ

- テ再ヒ海中ニ投スヘシ
- 但シ潮流瓶子トハ海流測定ノ要ニ供セン爲メ遠洋航海ノ諸船ニテ其所在ヲ實測シタルトキ不用ノ瓶子ニ其船名及經緯度月日ヲ記シタル紙ヲ入レテ投シタルモノナリ
- 第六 風雨針并寒暑針ノ高サ及海水溫度ハ午前午後ノ四時八時ト正午正子ニ登記スヘシ然レトモ險惡ヲ表シタル天氣ニ於テハ此限ニアラス或ハ每一時或ハ每十五分時間ヲ極トシテ詳細ニ登記スヘシ
- 第七 艦名年月日地名記事直員姓名信號ハ必ス國字ヲ以テ記註シ其他洋式ヲ用ユヘシ
- 第八 風力并天候ヲ登記スルニハ必ス次丁ノ符合式ヲ用ユヘシ
- 第九 記事ノ欄内ニハ艦内ニ發顯セル重ナル事件諸操練航海ニ關スル事件及本艦ニ關係アル物件ヲ登記スヘシ天候氣象海上ノ諸顯象ノ如キハ最モ航海ニ關スル要件ナルヲ以テ遺漏ナク登記スヘシ
- 第十 海岸ニ接近シ航スルトキノ如ク數航路ヲ變シ島嶼岬角内ヲ通航スルトキハ方向、距離、潮流、緯度、經度、羅針偏差到達地ノ眞方位及距離ノ諸欄ハ登記スルヲ要セシ此場合ニ在テハ正午ニ島嶼岬角ノ交方角ヲ測リ記事ノ欄内ニ登記スヘシ
- 第十一 旗艦或ハ先任官ノ艦ニ於テ信號日誌ヲ備フルトキハ此日誌ニ記註スルヲ要セシ
- 第十二 若シ以上ノ令示ニ違フコトアルトキハ艦長其責ヲ免カル可ラサルモノトス

風力之符號

- 0 平穩 カーム
- 1 至輕風 ライトエーヤ 稍艦ヲ進ムルニ足ル
- 2 輕風 ライトブリージ 一節ヨリ 二節
- 3 軟風 ゼントルブリージ 三節ヨリ 四節 總帆ヲ揚ケ平波上ヲ航スル者
- 4 和風 モダレートブリージ 五節ヨリ 六節
- 5 疾風 エンブリージ 七節ヨリ
- 6 雄風 ストロングブリージ 八節ヨリ
- 7 強風 モダレートブリージ 九節ヨリ
- 8 疾強風 フレンゲル 十節ヨリ
- 9 大強風 ストロングブリージ 十一節ヨリ
- 10 全強風 ホルゲル 十二節ヨリ
- 11 暴風 ストーム 十三節ヨリ
- 12 颶風 ハリケン 十四節ヨリ

縦一尺二寸三分大ノモノ

明治十七年

天候之符號

- B 青天 但シ大氣ノ清涼又ハ濕沾ニ拘ハラズ
 - C 曇 但シ斷雲飛散シテ一定セサルモノ
 - D 濛雨
 - F 霧 濃霧
 - G 滿天鬱黑
 - H 霞
 - I 電
 - M 密霧 但シ霧密ニシテ光景ヲ辨スル能ハサルモノ
 - O 陰雲
 - P 驟雨
 - Q 嵐カ、リタル
 - R 雨
 - S 雪
 - T 雷
 - U 天氣險惡ナル模様
 - V 晴雨ニ拘ハラズ遠物ヲ望得ルコト
 - W 露沾
- 凡テ文字ノ下ニ此點アレハ其非常ノ時ヲ顯スト見ヨ

二五三

日曜		日		月		年		治明泊錨		或		至		自艦		信	
直員姓名	時辰	航程		羅航	羅航	海水溫度	風候	風候	天候	風雨	寒暑	錨鎖	事記				號
		里	分										用	差	壓	力	
	一																
	二																
	三																
	四																
	五																
	六																
	七																
	八																
	九																
	十																
	十一																
	十二																
距離	方向	流潮		緯度	經度	羅差	飲水	羅差	偏差	到地	病員	炭費	夜石	一晝	航路		
		方	位												推測	實測	殘量
	一																
	二																
	三																
	四																
	五																
	六																
	七																
	八																
	九																
	十																
	十一																
	十二																

明治十七年

二五五

縦一尺二寸大ノモノ

表械器候測		表差鐵鉞羅基原									
鉞暑寒	鉞雨風	明治 年 月 日									
器種	器差	頭盤原 鐵羅 方羅改 頭盤原 鐵羅 方羅改									
		方面基 位船羅	差鉞	位鉞正	方面基 位船羅	差鉞	位鉞正				
		North			South						
		NbyE			SbyW						
		NNE			SSW						
		NEbyN			SWbyS						
		NE			SW						
		NEbyE			SWbyW						
		ENE			WSW						
		EbyN			WbyS						
		E			W						
		EbyS			WbyN						
		ESE			WNW						
		SEbyE			NWbyW						
		SE			NW						
		SEbyS			NWbyN						
		SSE			NNW						
		SbyE			NbyW						

備砲	乘組定員	糧食貯量	飲水貯量	構造ノ年月及船質
中甲板 砲種砲數 重量及長	准計 准卒 職工及火夫 水兵 下士 准士 准將 將校	米 鹽 乾物 鹽味 噲醬油	全樽 量	最後入渠年月 最後銅板張替ノ年月 船壓ノ噸量

航海測量士官姓名印	十二尺ニ於ケル橋ノ傾度	倉壓ヲ積ミ下タルトキ	糧食ヲ積ムタルトキ	五ケ月ノ糧食ヲ積ムタル時
	後中前	水面上 後部砲門 中央砲門 前部砲門	水面上 後部砲門 中央砲門 前部砲門	水面上 後部砲門 中央砲門 前部砲門

縦一尺二寸三分大ノモノ

二五四

明治十七年

第二號（二月）

測量官被置度儀ニ付上請

夫レ各地ノ水路ヲ探索シ廣ク海岸ヲ測量スルノ事業ハ航海ノ安全海道ノ防禦等ヲ計畫スルノ豫圖タルニ外ナラスシテ即チ兵務上ノ一要事ニ候得者右事業ハ固ヨリ海軍武官ノ執ルヘキモノタル論ヲ俟サル所ニ御座候乃チ各國ニ於テモ此事業ハ其學識ヲ備ヘタル海軍武官ニ執ラシムルヲ見ルノミ是レカ故ニカ我海軍ニ於テモ當局ヲ置ル、ノ始メヨリ其任ニ堪ユヘキ者ヲ養成シテ之ヲ武官トナシ今日專ラ其事業ヲ執ラシメラル是レ乃チ各國普通ノ事ニシテ實ニ當然之儀ト思考被仕候然ル處近頃追々出仕官ニ實業上達ノ者輩出候ニ付是迄ノ例ニ準ヒ舊冬武官ニ御採用之儀申出候處未タ御採用ニモ不相成右者測量事業ニ相當ルヲ得ルモ砲術操帆等其技術ヲ學ハサルヨリ御採用モ無之儀ト恐察仕候然ルニ現今英露其他各國海軍ト圖誌交換條約モ相結

ヒ陸續交換致居候折柄出仕又ハ傭等ノ名義ノ者ニ測量爲致候而者各國普通ノ例ニ乖キ内外ノ海客モ自然其圖誌ニ信用ヲ置サル様相成可申ハ顯然ニ付今後測量員ヲ武官ニ御採用難相成義ニ候得者右武官ト同様ノ信任ヲ置カシムルニ足ルヘキ名譽アルノ官ヲ設ケラレ之ニ御採用相成候様仕度且ツ過般水路學舎設置之儀上請仕リタル節詳陳仕候通該員之儀ハ種々高尚ノ學術ヲ修備シ兵務上一種ノ事業ニ服スル技術官ニ候へ者一般ノ文官トモ違ヒ其學力ノ深淺技術ノ巧拙ニ依テ其進退黜陟ヲ爲サ、ル可ラス又往々艦船ニ乗組テ出役スルコトモ可有之或ハ又艦船ニ乗組サルモ武官ト同一ニ其業ニ服スルコトモ可有之ニ付武官トノ權衡ヲ要シ候事情モ有之候得者何卒昨年普第二九四九號ノ上請御通覽ノ上別表ノ官等ヲ以テ自今測量官ヲ被置度此段上請仕候也

明治十七年一月廿二日

水路局長海軍少將

柳 檜悅

海軍卿川村純義殿

明治十七年

二五七

追テ本文上請之儀ハ過般上請仕候而御聞届可相成水路學舎規則取調ニ關シ差急キ候儀ニ付何卒至急御詮議相成候様仕度此段申副仕候也
 (別表)

海軍測量官等級並俸給表

海軍測量官等級並俸給表	奏	四等	五等	六等	七等	八等	九等	判任
		測量官	測量官	測量官	測量官	測量官	測量官	
一等俸	貳百五拾圓	貳百圓	百五拾圓	百圓	七拾五圓	五拾圓	三拾圓	
二等俸	貳百三拾圓	百八拾圓	百三拾圓	九拾圓	六拾五圓	四拾五圓	貳拾五圓	
三等俸	貳百拾圓	百六拾圓	百拾圓	八拾圓	五拾五圓	四拾圓	貳拾圓	

明治十七年

第四號 (三月)

普第二一六號

省中事務取扱内規別紙之通相定候條自今右手續ニ據リ執行可致此旨相達候也

明治十七年一月廿五日

海軍卿 川村 純 義

水路局長宛

省中事務取扱内規

第一條

凡ソ内外諸向ヨリ海軍卿或ハ本省宛ニテ到達スル諸公文ハ内局ニ於テ之ヲ受領シ指定ノ印ヲ捺シ各主務局ニ配付ス其各局ノ主務ニ屬セサル者ハ内局ニ於テ之ヲ調査ス可シ

第二條

明治十七年

二五九

主務局ニ於テハ其公文ヲ調査シ參照ヲ要スルモノハ其參照ヲ副ヘ意見ヲ具申ス太政官ヘノ上申又ハ伺届或ハ他廳ヘ照會回答或ハ指令ニ係ルモノハ其案ヲ添フヘシ各局主管ノ事件ニシテ決裁ヲ仰キ若クハ届ヲ爲スモノモ亦同シ

第三條

主務局ニ於テ事他局ニ關涉スルト認ルモノハ其關涉ノ局ト協議シ連署スヘシ若シ議協ハサルトキハ各自ニ意見ヲ具申ス可シ

第四條

各局ニ於テ調査セシモノ一應内局ニ於テ審査シ若シ之ニ意見アラハ先ツ主務局ニ協議シ若シ議協ハサルトキハ其意見ヲ具申スルコトヲ得

第五條

海軍部内各廳ヨリ進達セシ公文主務局ニ於テ調査ノ際若シ其事件ニ就キ説明ヲ要スルトキハ各所轄長ヲ經テ其主任者ヲ喚問スルコトヲ得但東京府外

ノ諸廳ニ係ル者ハ上請ス可シ

第六條

諸向ヨリ到達ノ公文指令若クハ回答ヲ要スル者ハ勿論其他總テ卿輔ノ檢印ヲ受ケ處行ス可シ但其事項全ク通常ノ小事件ニ係ル者ハ臨時大少輔ノ檢印ヲ以テ處行スルモ妨ケナシ

第七條

各主務局ノ調査ニ係リタル書類ニシテ其處分ヲ了リタルトキハ内局ヨリ之ヲ該主務局ニ回附スヘシ主務局ニ於テハ領知ノ證トシテ書面ノ右欄外ニ見認印ヲ捺シ直ニ内局記録課ニ送附スヘシ

第八條

諸向ヨリ書記官宛ニテ到達ノ公文ハ内局ニ於テ各主務局ニ回附ス主務局ニ於テハ其向ヘ直ニ應答ス可シ然レトモ定例ナキカ或ハ重大ノ事件ハ第六條ニ準シテ處分ス可シ

第九條

各局主務ノ事項ト雖モ卿輔ノ名ヲ以テ照會往復スル公文ハ内局ニ於テ其取扱ヲ爲ス可シ

第十條

布告布達及ヒ諸報告ノ如キ摺物ハ内局ニ於テ(何局)廻ノ印ヲ捺シ配付ス可シ但諸報告ノ類ニシテ瑣末ノ事件ニ止マリ各局諸官廨ニ關係ナキ者ハ直ニ記録課ニ送ル可シ

第十一條

各局ニ於テ處分未濟ノ公文樞要ニ涉ル者ハ日々退散ノ節文庫ニ納メ嚴ニ變災等ヲ戒ム可シ

第十二條

内局記録課主管ノ書類ハ他ニ出スコトヲ許サス故ニ閱覽ヲ要スル者ハ自ら記録課ニ出テ該課ノ承諾ヲ得可シ若シ各局ニ於テ借用スルトキハ書類出納

二月普第二
一六號ノ二
ヲ以テ事輕
少以下三十
五字ヲ加フ

簿ニ標題番號局名及ヒ主任者ノ官氏名ヲ明記捺印ス可シ但借用七日以上ニ及フトキハ各局長ヨリ更ニ内局長ニ宛證書ヲ送ルヲ例トス

第十三條

各局ニ於テ公文ヲ送付スルトキハ本書ニ附屬ス可キ書類並ニ物件等遺脱ナキヲ注意シ總テ送達簿ニ其番號ヲ記シ落手人ニ捺印セシメ以テ後日ノ證ニ供ス可シ但東京府外ノ往復ハ送達紙ヲ添帶シ本文ニ準ス可シ事輕少ナルモノ及ヒ書留郵便ヲ以テスルモノハ送達紙ヲ添帶セサルモ妨ケナシ

第十四條

各局ニ於テ件名簿ヲ置キ往復公文ノ件名番號及ヒ其要點ヲ記註シ後證搜索ノ便ニ供ス可シ

第十五條

各局主管ノ事件ニシテ他局ニ關涉スル者ハ該局ヘ協議シ參照ヲ要スルモノハ其參照ヲ副ヘ太政官ヘノ上申伺届或ハ他廳ヘ照會回答等ニ係ルモノハ其

右同時ニ
十五條下加
ニナル

案ヲ添へ具申ス可シ

第十六條

公文調査及ヒ主管ノ事件ハ左ノ書式ニ照準具申ス可シ

公文調査ノ書式

主務

局長

主査

卿 輔

内局長

審査

主管事件ノ書式

主務

局長

主査

局長(朱書)

主査(朱書)

卿 輔

内局長

審査

各局主管ノ事件ニ付右兩書式ニ據リ難キモノニ限リ従前ノ手續ニ從フモ妨ケナシ

明治十七年

第五號ノ一(二月)

明治十六年西行出測復命書

小官等ノ一行嚮ニ藝防海岸(即廣島灣)測量ノ命ヲ奉シ昨十六年二月二日(關少尉ハ三月廿一日)東京ヲ發シ該海岸ノ測量ニ從事セシカ續テ又肥前大村灣全部及安藝伊豫筑前肥前ニ於テ水雷布設ニ關スル要處二十餘ヶ處及三菱會社汽船隅田丸ノ衝突沈没セシ暗礁位置確定ノ爲メ長門西岸水島水道等ヲ測量スヘキノ追命ヲ受タルニ付即チ初メニ奉命ノ測量竣功スルノ後更ニ三浦中尉ト二行ニ分レ右追命ノ場處々々悉皆ヲ測量シ小官ニハ同年十一月廿二日ニ三浦中尉岸田十七等出仕及水兵一名ニハ同十二月廿六日ニ高野瀨中尉關中尉(此兩官同年十一月九日ヲ以テ本官ニ昇進ス)及水兵一名ニハ本年一月二日各々著京歸局セシカ今其事業施行ノ顛末及結果ノ概略ヲ各員分任ノ區別及執業ノ辯解測量ノ功程及辯解顛末記事ノ三項ニ分チ復命スルコト左ノ如

筑前	筑前	安藝	安藝	安藝	安藝	安藝	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	安藝	安藝
折龜瀬戸	荒埼瀬戸	竹原瀬戸	長島瀬戸	龜島瀬戸	柏島瀬戸	大下瀬戸	花栗瀬戸	宮窪瀬戸	八満瀬戸	馬島瀬戸	早瀬瀬戸	隱渡瀬戸
至ニ一分四リヨ一分二												
一一、一	一一、一	一五、二	一五、二	一五、二	一五、二	一五、二	三〇、三	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、〇	五三、七
												前年ニ全クナキ所ノモノナレハ其比較ヲ見ル能ハス

圖	名	圖積	尺度海里ノ英寸	第 十 號 同	長門西岸水島水道四分一	二、〇〇〇	測天ニ依テ														
							緯度ヲ定メタル日數	經度ヲ定メタル日數	眞方向ヲ定メタル箇	磁針偏差ヲ定メタル箇處											
							潮	驗	一人一日ノ工程ヲ單位ニ立テ計算シタル工數	水兵及雇夫	士官以上	晝	夜	箇處	一四	一四	一	六	二〇	七七八	三六八
							三	三	六	二	二	五八	三	三	二四〇	二四〇	二〇九	二〇九	二八四	二八四	二〇九
							一	一	一	一	一	八八	四	四	二〇九	二〇九	二〇九	二〇九	二八四	二八四	二〇九
							一	一	一	一	一	二五	一〇	一〇	八二七	八二七	八二七	八二七	一四四	一四四	八二七
							六増	三増	三増	一増	一増	六増	六増	六増	一四〇増	一四〇増	一四〇増	一四〇増	三八四増	三八四増	一四〇増

以下水雷布設用ニ製シタル者

緯度 三處皆可搬子午儀ヲ用ヒ土兒忽法ニ依リ各々撰星二十五對以上測數 一百以上ヲ施シテ之ヲ定ム

肥前	日比瀨戸
肥前	青島瀨戸
肥前	津崎瀨戸

測量員ノ工數一百ニ對スル測得諸數

但水兵傭夫ハ大抵驗潮ニ從事セシモノ故茲ニ其工數ヲ入レス

前測	海岸里數	海面方里	錘測個數	圖積方寸 <small>水雷布設用ニ製シタルモノハ之ヲ除ク</small>
	當測	海面方里	錘測個數	
前測	三四	一二八	七四九	二四八
當測	五三	三五	一四四二	二四七
				一三一
				一二四

其海岸里數ニ増シ海面方里ニ減シヲ見ルハ全ク地勢ノ異別ニ因ルモノニシテ其海岸一里ニ比スヘキ海面方里ヲ算スレハ當測ハ〇、六六前測ハ三、七九方里ニ當ル即チ此數ニ依リ其區域ノ前測ハ陸岸ニ短ク海面ニ廣ク當測ハ陸岸ニ長ク海面ニ狭マカリシヲ見ルヘシ又其錘測個數ニ増シヲ見ルハ全ク當測ノ前測ヨリ深淺測ニ精密ナルニ因ルモノニシテ即チ其個數一方里ニ付前測

ハ六個弱當測ハ四十一個強ニ當ル又其圖積ハ海岸圖港泊圖共ニ伯仲ノ間ニ在ル數ヲ現ハセトモ當測ニハ水雷布設用ニ編製シタル諸圖ヲ悉ク省キタリ今上載ノ諸事ヲ紙上ニ見ルトキハ即チ前測ニ對シ頗ル優ル所アルニ似タレトモ亦地方氣候ノ好惡區域實積ノ廣狹執業ノ難易等ヲ顧思シテ之ヲ參照スルトキハ其優劣ヲ判定スルコト甚難ク乃チ相伯仲スルノ言ヲ下スノ外ナカルヘシ然レトモ蓋シ前測タル其抄取ニ於テハ開局來第一ニ指ヲ屈スヘキ所ノモノトス而シテ當測今此結果アリ豈測事進步ノ現徵ニアラスヤ抑々連年此好結果ヲ得ル所以ハ固ヨリ閣下ノ處理其宜キヲ得タルニ外ナラスト雖モ亦其出測中ノ實際ヲ顧思スレハ同行諸員ノ能ク其本分ヲ失ハス或ハ篷窓ニ寢食シテ嗽潮水枕ノ苦ヲ忘レ或ハ羈窓ノ燈下ニ寢ルヲ忘レ碎身其業ヲ執リテ偏ニ主任小官ノ拙劣ヲ助ケタルニ因ル所多矣伏テ乞 閣下夫レ同行諸員ノ刻苦勉勵ヲ照察シ賜ヘ

顛末記事

昨年一月廿四日小官出測ノ命ヲ奉スルニ際シ閣下内訓スル所アリ云ク今回ノ出測ハ西海鎮守府設置ノ地ヲ撰定セラル、ニ起リシコトナレハ宜シク先ツ其旨趣ヲ領知シ當ニ其航海上ノ水路ヲ探明スルノミナラス該海道ノ防禦ヲ始メ其他海鎮ノ設置ニ關シ要アル箇條ヲ探討スルニ注意スヘシ又其施測ノ順序タル全部完測法ヲ施サス要部摘測ノ法ヲ施シ途次ニ先ツ尾ノ道港ヲ探リ而ル後安藝海岸ニ入ルヘシ而シテ其關節部ノ大勢ヲ探測シ得タレハ其實況詳陳ノ爲メ足下ニハ一ト先ツ歸京スヘシト乃チ是ニ於テ携行スヘキ測器整備及圖板標旗等其他要用品ノ調製ニ取掛リタル處二月一日ニ至リ其準備全ク成ルヲ以テ翌二日ヲ以テ東京ヲ發シ同七日備後尾ノ道ニ著ス然ルニ此日ハ陰曆ノ大晦日ニ當リ市中ノ混雜一方ナラサルヲ以テ使用船ヲ雇入ル、都合モ難ク且降雨ニテ霽ル、ノ見込モ無之ニ付測量ハ先ツ翌八日ヲ以テ著手スルニ決意シ其使用船等雇入ノ手筈ヲナセシニ同日ハ又元日タルノ故ヲ以テ何分ニモ之ヲ肯セス大ニ困却ヲ極メタレトモ戸長役場ノ説諭ニテ漸

ク夜ニ入り一艘ノ小舟ヲ雇入ル、コトヲ得タリ而シテ八日ノ朝ニ至レル處小官ニハ已ニ發京前ニ冒サレ居タル邪氣ノ倍募リ頭痛且惡寒頗ル甚シク如何トモ起キ難キヲ以テ三浦中尉外二名ニ本港探測ノコトヲ托シ港内并ニ該東方ノ灣中ヲ探ラシメシニ其要部ニ當ル處皆至淺或ハ至狹ニシテ艦船等ノ決シテ入り得ヘキ地ニアラス且其陸地ハ山海岸ヨリ崛起シテ頗ル平坦ニ乏シク又商賈ノ麇集内海第一ノ港タレハ小賈船ノ出入殊ニ繁ク乃チ右等ヲ參照スルトキハ其海鎮設置ノ地ニ適セサル固ヨリ論ナシ依テ同夜暗號電信ヲ以テ此事ヲ御報シ翌九日ニ至リタル處小官ノ邪氣モ頓ニ薄ラキ殆ント全快ノ姿ナルヲ以テ即チ安藝海岸ニ入ラント裝帆ノ小舟兩艘ヲ雇ヒ之ニ總員及携行ノ諸物ヲ分搭シ同日午前十時尾ノ道ヲ發ス是ヨリ各地ヲ巡視回航シ同十日夜安藝國安藝郡宮原村吳灣ニ抵リ廣島灣防禦ノ要ヲ考フルニ其慮リノ豊後水道及下ノ關ノ兩峽ニ在ル固ヨリ論ナシト雖モ亦其内線ノ防禦ヲ論スレハ隱渡、早瀬、那沙美、大野ノ四峽ヲ以テ慮リアルノ地ト認定セサルヘカ

二七四

ラス又其海鎮設置ノ場處ハ固ヨリ此内線防禦ノ内部ニ在テ其陸地ニ廣キ平坦ノアラシコトヲ要スレハ即チ此吳灣ヲ除キテ他ニナシト決意セルニ付直チニ之ニ上陸シテ止宿ヲ定メ先ツ右要害各處ヲ明瞭ニススニ足ルヘキ圖ヲ製シ之ヲ小官實視ノ形勢上陳ノ爲メ歸京スルノ資材ニセント翌十一日ヲ以テ石灰標杭等ヲ整ヘ同十二日ヨリ夫々擔任ヲ定メ測量ニ著手セリ依テ右御届ヲ致シ且上載私決ノ意見及已ニ探測シタル各處ノ水路等ヲ詳細郵便ヲ以テ御報道致候處此報道到著シテ其形情委細御領了アリタルニヤ同廿二日小官ニ電報アリ即チ報道ノ趣委細領了セリ就テハ歸京スルニ及ハス引續キテ安藝海岸ヲ測量スヘシトノ意ナル御下命ナリ續テ又日ヲ隔テス郵報ヲ以テ先キノ御趣意ニ外ナラサル詳命アリ是ニ於テ要部摘測法ヲ止メ全部完測法ヲ取り即チ區域ヲ十分ニ廣メテ十二分ノ測量ヲ施シ之ヲ局版第一百四十號英版八十三號一百三十二號ノ三海圖ニ悉ク連絡セシメ又其要害各處ハ一々ニ長尺度ノ分圖ヲ調製シ又經緯度ノ測定ニハ可搬子午儀ヲ使用致シ度等ノ冀

望起リシニ付器械及圖板其他ノ要品ニ多數缺乏ヲ生シ又測員モ四名ニテハ何分不足ナレハ途次右器械等要品ノ護送ヲ兼ネ一名ノ増員ト要品ノ追求ヲ上請セシ處三月九日付ヲ以テ右上請御許容ノ御回報アリ續テ關少尉其命ヲ拜シ追求ノ諸物品ヲ携ヘ同廿五日測地ニ到著セリ是ニ於テ尙名々ノ負擔ヲ定メ拮据測量ニ從事罷在シ處其後諸事非常ノ抄取ニテ四月下旬ニ至リ多分ハ六月中ニ成功ノ好結果ヲ得ヘキ豫徵ヲ見ルニ及ヘリ而シテ此時ハ眞方向及磁針偏差ノ測定ニ係ル測天已ニ卒リ基線測定ニ係ル緯度ノ密數ノ測天モ亦其一處ヲ卒ヘ且自分擔任ノ第一務タル原點測定モ早ヤ第二號圖ノミト相成候ニ付即チ四月二十六日付ヲ以テ經度電測ノ施行期ヲ早メラレタキコト及此測量竣功次第ニハ續テ内海西部ノ測量ヲ完全セン爲メ其見込ヲ詳陳シテ之ヲ上請シ引續テ第二號圖ノ原點測量ニ取掛リ居タル處右上請ニ依リ先ツ彼ノ電測ノ施行期ヲ早メラレタルニ付原點測量ヲ卒リ廣島ニ移リテ其電測ニ從事セシカ五月廿一日ニ至リ當測量竣功次第ニハ肥前大村灣ヘ轉シ該灣ヲ

悉皆測量スヘキ旨御達アリタリ依テ速ニ七月後ノ測量費豫算並轉測後ニ要
 スル圖紙類ノ數額ヲ積リ之ヲ請求セシ處其遞送法夫々御配慮ニテ六月十七
 日迄ニ圖紙類等ハ該縣廳ヨリ金額ハ三井銀行支店ヨリ各々之ヲ受取タリ而
 シテ此時ハ右ノ電測モ卒リ從フテ當全部ノ測量モ嚮ニ見ヘタル豫徴ノ如ク
 愈々六月中ヲ以テ竣功セントセシニ付即チ折角轉測ノ都合ヲ計畫シ居リシ
 カ又安藝伊豫肥前筑前ノ四ヶ國ニ於テ水雷布設ニ關スル要處數十ヶ處ヲ測
 量スヘキ旨云々追達アリ依テ先ツ右ノ計畫ヲ見合セ更ニ那沙美、大野兩瀬戸
 ノ長尺度分圖ヲ調製スルコトニ決シ同十八日ヲ以テ吳ニ歸宿シ後之ニ著手
 セシカ其測量已ニ半程ノ功ヲ奏セシ日(即チ七月十一日)曾テ春來派出ノ水雷局
 員遠藤大尉該局長ノ命ニヨリ藝豫兩國中ニ在ル水雷布設要處ノ數個ノ測量
 區域等實視引續ノ爲メ下ノ關ヨリ來著セシニ付即チ該要處中ナル早瀬隱渡
 兩瀬戸ノ精整分圖及那沙美大野兩瀬戸ノ綱圖ヲ一覽セシメシニ後ナル二圖
 ハ不可ナケレトモ前ナル二圖ハ水雷布設用ニハ何分ニモ其峽闊尙未タ甚狹

シ依テ願フ此二處丈ハ百碼ニ付二英寸乃至三英寸ノ比例ヲ以テ更ニ再測ア
 リタク尤前ノ如キ廣域ニハ及ハス中央ノ部分ノミニテ然ルヘシトノ望ミニ
 付又此兩處ヲ再測スルニ決シ之ヲ夫々手配ナスノ後同十二日ヲ以テ他ノ引
 續場處實視受渡ノ爲メ遠藤大尉ト俱ニ吳ヲ發シ竹原、大下、加禮、花栗、來島等ノ
 各峽ヲ巡視シテ其引續ヲ悉ク受ケ同官ニ伊豫今治ニ分レ同十五日夕吳ニ歸
 宿セリ是ニ於テ以後ノ測量都合ヲ考フルニ固ヨリ分業ニ超過スルノ功程ナ
 ルヲ以テ何様ニ計考ヲ下スモ例年ノ定期限内ニ成功スヘキ見込相立ス去ト
 テ又其箇處ノ幾分ヲ減セラレタキコトヲ請求シ或ハ増員等ヲ乞フ様ノコト
 甚遺憾ニ堪ヘス且人ヲ増シテ期限ヲ定ムルヨリ寧ロ人ヲ増サシテ期限ヲ定
 メサルノ都合ヨキニ若カサレハ飽迄モ此人員ニテ復命ヲ全フセンコトニ決
 シ一同商議ノ上大村海灣ハ悉皆之ヲ小官ト高野瀬、關兩少尉及水兵一名ノ擔
 任トナシ他ノ各處ハ悉皆之ヲ三浦中尉岸田十七等出仕及水兵一名ノ擔任ト
 シ一行分測ノ都合ニ定メタリ依テ此儀電報ヲ以テ相伺タル處右ニテ可然旨

速ニ御答報ヲ得タリ而シテ此時ハ成測各圖ノ淨寫モ將ニ成ラントセシニ付如何シテ之ヲ閣下ニ贈呈仕ラント思考致シ居タル處恰モ好シ局員林十六等出仕暑中休暇ニ際シ小官ニ私用ノアリタル旁廣島地方ニ漫遊ヲ兼ネ測量事業實況ノ目撃冀望ニテ吳ニ來著セシニ付キ即チ頼ムニ此事ヲ以テ談シ候處歸路ニ携行スヘキ旨領諾ニ付其整頓ヲ待テ之ヲ同人ニ托シ而シテ三浦中尉ニ凡二ヶ月分ノ測量費ヲ渡シ同廿六日ヲ以テ高野瀨關ノ兩少尉及水兵一名ト俱ニ廣島測地ヲ出發シ博多長崎ヲ經テ同三十一日大村測地ノ内西彼杵郡面高村ニ著シタリ是ニ於テ測量ノ方按ヲ下シ先ツ其時候ヲ察スルニ以前ノ測量トハ相反シ追々ニ海面モ暴激ニ向フノ順次ナレハ施測ノ順序モ亦外部即チ最モ其暴激ヲ厭フノ部分ヲ先ニシ内部即チ時季後ル、モ平穩ノ見込アル部分ヲ後ニセサル可カラス殊ニ又伊之浦瀨戸ナル難峽ノアルアリテ殆ント内部外部ヲ絶ツノ勢アルヲ以テ旁前期後期ニ分タサレハ事業ノ都合甚タ惡シ依テ該村ニ定止宿ヲトリ翌八月一日ヨリ外部ニ先ツ著手セリ而シテ植標シナ

カラ且該海灣總部ノ實勢ニ注目シ其要部ノ何處ニアルカラ視察スルニ其内部ニナク外部ニ在ル此事大村海灣實視意見書ヲ認定セシニ付即チ水路測令第五十一項ノ訓令及其圖積等ヲ參考シ外部ヲ一海里ノ尺度二英寸ヲ以テ海岸圖港圖混種ノ全整海圖ニ編製シ内部ヲ緯度十分ノ長短率十六英寸ナル全整海岸圖ニ編製スルコトニ決シ三員各其擔任ヲ定メ烈日ヲ厭ハス炎風ヲ避ケス發憤其業ニ從事セシ處小官ニハ同月廿七日ニ至リ外部即チ初著中ノ分業ヲ卒ヘタルニ付本圖整頓上ノ事一切ヲ高野瀨關兩少尉ニ吩咐シ翌廿八日ヲ以テ内部即チ後期ノ植標ニ著手シ同九月十日ヲ以テ定止宿ヲ大村ニ轉シタリ續テ其要用ナル諸原點ヲ測リ卒リ之カ記入ヲ濟セシ頃即チ同月廿六日ニ至リ右兩少尉ニモ其分業ヲ卒ヘ面高ヲ發シ大村ニ到著ス而シテ是ヨリハ測天諸事、縈紆深入セル各支灣ノ細原點、屈曲狹長ナル早岐瀨戸ノ原點岸測山畫等ヲ小官ノ分擔トシ總部ノ岸測山畫ヲ高野瀨少尉同鍾測ヲ關少尉ノ分擔トシ從業セシ處小官ニハ此間費金爲換ノ受取方及三浦中尉ヘノ爲換取組方等ノ爲メ

長崎ニ兩回ノ往復ヲナス(固ヨリ内海ノコトナレハ海面モ平穩カチニテ諸事ニ都合ヨク十月下旬ニ至リ小官ニハ緯度測經度測ヲ殘スノミノ運ヒヲ得タルニ付即チ費用ノ節減課務内事ノ都合等ヲ計リ其思考セシ所ヲ方々内陳仕候處其後環蝕ヲ測量(竟ニ曇テ成ラス)スヘキ電報アリ續テ又他員ニ托ス可カラサル諸件ヲ悉ク卒了シ歸京スヘキ旨ノ電報ヲ賜リタルニ付即チ先ツ緯度測ニ著手シテ之ヲ卒リ長崎ニ於テ使用スヘキ測天六分儀等ヲ受取ナカラ又費金ヲ渡シ且此歸京ノコトヲ告ケ後ノ諸事ヲ附托セント伊萬里ニ赴キ三浦中尉ヲ尋シ處止宿處ノ不分明ヨリ竟ニ面會スルヲ得ス依テ其夜直ニ折柄同港ニ碇泊ノ扶桑艦ニ至リ右六分儀等ヲ一時借受タキコト及費金ノ渡方傳言並ニ書狀ノ送達方ヲ依頼セシニ何件モ皆速ニ承諾ヲ得タルニ付即チ金員三百圓ト其他書狀等ヲ該艦本宿少佐並ニ主計官ニ渡シ右六分儀等ヲ借受ケ之ヲ携ヘテ其翌日大村ニ歸ルノ後尙其經度測ニ係ル時辰測ヲ施シ費金及後ノ諸事ヲ關中尉ニ委託シ十一月十一日ヲ以テ經線儀兩個及測天六分儀等ヲ携

へ海路小艇ニ搭シテ大村ヲ發シ同十三日夕長崎ニ到著翌十四日ヨリ三日間同處ニ時辰測ヲ施シ以テ大村ノ經度ヲ算定シ之ヲ在大村ノ關中尉ニ報シ六分儀等ヲ扶桑艦へ返却ノコトヲ同處海軍出張所ニ依頼シ同十七日ヲ以テ同處出發同廿二日著京歸局セリ而シテ自餘ノ各員ハ後夫々分業ヲ卒リ兩行共ニ十二月十九日ヲ以テ測地ヲ發シ三浦中尉等ノ一行ニハ同廿六日ニ高野瀨中尉等ノ一行ニハ本年一月二日ニ著京歸局ス

明治十七年

第五號ノ二

明治十六年西行出測分行復命書

小官昨十六年二月ヨリ貴官ニ隨行シ安藝周防海岸測量ニ從事セシカ同年七

月該測量竣功セシヲ以テ岸田十七等出仕ト共ニ命ヲ奉シテ水雷布設ニ關スル測量即チ日本内海ニテ隱渡瀨戸、早瀨々戸（此二瀨戸ニ限リ高野瀨中尉之レニ關シ隱渡瀨戸ニ限リ關中尉之レニ關ス）馬島瀨戸、八滿瀨戸、宮窪瀨戸（ミヤノクボ）、花栗瀨戸、柏島瀨戸、大下瀨戸（オホノゲ）、龜島瀨戸、長島瀨戸、竹原瀨戸、筑前國博多灣ニテ荒崎瀨戸、折龜瀨戸、肥前國伊萬里灣ニテ日比瀨戸、青島瀨戸、津崎瀨戸等合セテ十六ヶ所内水雷防禦線二十ヶ所ノ測量及ヒ長門國西岸水島水道ニテ三菱汽船隅田丸ノ攔觸セシ暗礁測量ヲ了シ同年十二月廿六日歸局セリ今各地測量ノ概略ヲ陳述スルニ水雷敷設ニ關スル測量ハ其地水道ニシテ多少ノ潮流アリ且ツ圖ノ尺度長大ナルヲ以テ原點測、岸測、錘測、潮流測及ヒ其他測量ノ方法ハ通常ノ海岸圖及ヒ港泊圖ニ用ユル測量トハ聊カ其趣ヲ異ニス因テ其方法ト實況トヲ併セテ茲ニ之ヲ詳記ス

日本内海安藝海岸諸水道

隱渡瀨戸

此測量基線ハ局版廣島灣圖ヨリ採リタル者ニシテ圖ノ大サ實形六千英尺ヲ五十三英寸一七トシ原點測ハ高野瀨中尉ニシテ點數三十六岸測ハ三浦中尉ニシテ岸線零里六四錘測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ兩錨ヲ用キ小舟ヲ繫止シ舟位ヲ定メテ投鉛シ次ニ其錨索ヲ張弛シ舟位ヲ轉シテ又投鉛ス餘ハ皆ナ之レニ倣フ而テ海面方里零、零一ニテ投鉛數百零二潮流測ハ關中尉ニシテ小舟ヲ流シテ是レヲ驗ス

早瀨瀨戸

此測量基線ハ局版廣島灣圖ヨリ採リタル者ニシテ圖ノ大サ實形六千英尺ヲ十九英寸七八トシ原點測ハ高野瀨中尉ニシテ點數三十二岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線二里一錘測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ海面方里零、零四ニテ投鉛數七十二但シ此水道ハ潮流急速ナルヲ以テ憩潮ニ非サレハ投鉛スルコト能ハス潮流測ハ岸田十七等出仕ニシテ小舟ヲ流シテ之ヲ驗ス

此二圖ニ掲クル經緯度ハ局版海圖隱渡瀨戸、早瀨々戸ノ各平面圖ニ據ル

日本内海伊豫安藝間諸水道

馬島瀬戸

此測量ハ佐渡沙濱ニ基線千八百八十六英尺大島西濱ニ九百二十三英尺七ヲ度
リ三角測ハ八滿瀬戸ト相ヒ連續シ圖ノ大サ實形六千英尺ヲ二十英寸トシ原
點測ハ三浦中尉ニシテ點數八滿瀬戸ヲ合セテ百四十一岸測ハ岸田十七等出
仕ニシテ岸線二里八鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零、一六ニテ投鉛
數百三十此水道ハ潮流急速ナルヲ以テ憩潮ニ非サレハ投鉛スルコト能ハス
潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス
八滿瀬戸

此測量三角測ハ馬島瀬戸ト相ヒ連續シ岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線二
里八二鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零、二五ニテ投鉛數二百零六此
水道ハ潮流急速ナルヲ以テ憩潮ニ非サレハ投鉛スルコト能ハス潮流測ハ三
浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス

宮窪瀬戸

此測量ハ博多島沙濱ニ基線千五百十七英尺五ヲ度リ全圖ノ大サ實形六千英
尺ヲ二十英寸トシ分圖ノ大サ六千英尺ヲ六十英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニ
シテ點數七十九岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線二里八七鍾測ハ岸田十七
等出仕ニシテ全圖ニ在テハ錨ヲ用キスシテ投鉛シ分圖ニ在テハ錨ヲ用キテ
投鉛ス而テ海面方里零、一四ニテ投鉛數百六十五此水道ハ潮流急速ナルヲ以
テ憩潮ニ非サレハ投鉛スルコト能ハス潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二
名ニシテ錨ヲ用キ小舟ヲ繫止シ物體ヲ流シテ之レヲ驗ス

花栗瀬戸

此測量ハ大三島沙濱ニ基線三百二十九英尺五ヲ度リ圖ノ大サ實形六千英尺
ヲ三十英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數五十岸測ハ岸田十七等出仕ニ
シテ岸線一里二四鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ錨ヲ用キ小舟ヲ繫テ投鉛ス
而テ海面方里零、零七ニテ投鉛數百十七潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二

名ニシテ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス

大下瀬戸

此測量ハ大下島東濱ニ基線八百九十八英尺七ヲ度リ三角測ハ柏島瀬戸ト相ヒ連續ス圖ノ大サ實形六千英尺ヲ十五英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數柏島瀬戸ヲ合セテ百二十二岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線二里六九鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零三八ニテ投鉛數百三十六潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ一ツハ錨ヲ用キ小舟ヲ繫止シ物體ヲ流シテ之レヲ驗シ一ツハ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス

此測量三角測ハ大下瀬戸ト相ヒ連續シ岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線二里二二鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零一八ニテ投鉛數百二十七潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ一ツハ錨ヲ用ヒ小舟ヲ繫止シ物體ヲ流シテ之レヲ驗ス一ツハ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス
龜島瀬戸

此測量基線ハ局版安藝海岸圖ヨリ採リタル者ニシテ長島瀬戸及ヒ竹原瀬戸ト相ヒ連續ス圖ノ大サ六千英尺ヲ十五英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數長島瀬戸竹原瀬戸ヲ合セテ百四十九岸測ハ三浦中尉ニシテ岸線一里七八鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零一二ニテ投鉛數百零九潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス

長島瀬戸

此測量三角測ハ龜島瀬戸竹原瀬戸ト相ヒ連續シ岸測ハ三浦中尉ニシテ岸線三里零二鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零二七ニシテ投鉛數百六十四潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス
竹原瀬戸
此測量三角測ハ龜島瀬戸長島瀬戸ト相ヒ連續シ岸測ハ三浦中尉ニシテ岸線一里三四鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零四五ニテ投鉛數百七十一

潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス

龜島瀨戸以下三圖ニ掲クル經緯度ハ安藝海岸圖ニ據ル隱渡瀨戸以下十一ヶ所測量ノ間下大崎島御手洗ニ驗潮所ヲ設ケ日夜驗測六日日中驗測四十二日柏木三等水兵ヲシテ之レヲ掌ラシム

博多灣諸水道

荒埼瀨戸

此測量ハ志賀島中道沙濱ニ基線二千八百零一英尺三ヲ度リ圖ノ大サ實形六千英尺ヲ十二英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數二十七岸測ハ三浦中尉ニシテ岸線三里一四鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零五七ニテ投鉛數二百八十潮流測ハ岸田十七等出仕ニシテ一ハ錨ヲ用キ小舟ヲ繫止シ物體ヲ流シテ之レヲ驗シ一ハ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス

折龜瀨戸

此測量ハ今宿沙濱ニ基線千五百五十三英尺七ヲ度リ圖ノ大サ實形六千英尺

ヲ十二英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數三十二岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線二里五二鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零五一ニテ投鉛數二百五十六潮流測ハ岸田十七等出仕ニシテ小舟ヲ流シテ之レヲ驗ス

荒埼瀨戸以下二ヶ所測量ノ間濱崎浦ニ驗潮所ヲ設ケ日夜驗測十二日柏木

三等水兵ヲシテ之レヲ掌ラシム

伊萬里灣諸水道

日比瀨戸

此測量ハ星鹿礫濱ニ基線六百六十九英尺三五ヲ度リ圖ノ大サ實形六千英尺ヲ十英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數八十六岸測ハ三浦中尉ニシテ岸線九里五五鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里一五二ニテ投鉛數六百五十八潮流測ハ三浦中尉岸田十七等出仕二名ニシテ錨ヲ用キ小舟ヲ繫止シ物體ヲ流シテ之レヲ驗ス

日比水道隱險ノ發見

此隱險ハ英圖第百二十七號ニ記載セサル險礁ヲ掲ク其位置ハ此分圖ニ因分テ參觀スルコトヲ要ス

鷹島東岬干上リ鼻ノ東微南四分一南二鏈三分一ニ一礁アリ低潮水深三尋四分三又干上リ鼻ノ東北東三鏈ニ一礁アリ低潮水深二尋四分三礁脈牛島ニ連ル此二礁ハ日比水道ノ殆ント中央ニ位ス

ツ、ラ瀬礁ハ鷹島鵜瀬埼ノ東北東二分一北二鏈三分二ニアリ低潮水深一尋四分三該水道ノ殆ント中央ニ位シ其礁脈帽子鼻ニ連ル

ワ、ン瀬礁ハ鷹島日比晒場鼻ノ東南東四分一南一鏈三分一ニアリ低潮水深一尋ニ滿タス日比灣ニ入ルノ船路ニ位ス

トワタン瀬礁ハ大陸星鹿宮埼ノ西南西四分一西二鏈ニアリ低潮水深三尋四分三該水道ノ殆ント中央ニ位ス

青島瀬戸

此測量ハ星鹿スゲ浦礫濱ニ基線四百五十英尺一五ヲ度リ三角測ハ津埼瀬戸

ト相ヒ連續ス圖ノ大サ實形六千英尺ヲ十英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數津埼瀬戸ヲ合セテ九十六岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線三里七鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里一二九ニテ投鉛數六百五十八潮流測ハ岸田十七等出仕ニシテ錨ヲ用キ小舟ヲ繫止シ物體ヲ流シテ之レヲ驗ス魚固島水道險礁ノ發見

此險礁ハ英圖第百二十七號ニ記載セサル險礁ヲ掲ク其位置ハ此分圖ニ因テ參觀スルコトヲ要ス

北ゾ根礁ハ鷹島ノ西岬イカヅチサキ雷埼ノ西二分一北二鏈四分三ニ在リ低潮ニハ其頭ヲ蕩滌ス

津埼瀬戸

此測量三角測ハ青島瀬戸ト相ヒ連續シ岸測ハ岸田十七等出仕ニシテ岸線二里八六鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里零四五ニテ投鉛數二百六十三潮流測ハ岸田十七等出仕ニシテ錨ヲ用キ小舟ヲ繫止シ物體ヲ流シテ之ヲ驗

ス
荒崎瀬戸以下五圖ノ經緯度ハ英圖第二百二十七號ニ據ル日比瀬戸以下三所
測量ノ間北松浦郡星鹿浦ニ驗潮所ヲ設ケ日夜驗測二十八日柏木三等水兵
ヲシテ之レヲ掌ラシム

長門國西岸水道

水島水道

此測量ハ通常ノ海岸圖ニシテ福江沙濱ニ基線二千四百五十四英尺ヲ度リ圖
ノ大サ實形一里ヲ二英寸トシ原點測ハ三浦中尉ニシテ點數百二十一岸測ハ
岸田十七等出仕ニシテ岸線十四里二鍾測ハ岸田十七等出仕ニシテ海面方里
二四ニテ投鉛數三百十六

此圖ノ經緯度ハ六連島燈臺經緯度 明治十二年肝付少佐ノ測定ニ係ルニ基キ極星最西距ヲ測
リ眞方位ヲ得テ弧三角法ヲ用ヒ之レヲ算ス而テ此測量ノ間吉母浦ニ驗潮
所ヲ設ケ日夜驗測二十一日柏木三等水兵ヲシテ之レヲ掌ラシム

上載之通ニ候也

十七年二月

海軍中尉 三浦重郷

西行出測主任

海軍少佐肝付兼行殿

明治十七年

第五號ノ三

陸奥國尻矢崎近傍測量出張員復命書

小官本年五月十日海軍少尉三浦義深同藤原信高同荒畑岩次郎海軍省十六等
出仕伊東正助等ト俱ニ陸奥國尻矢崎近傍測量トシテ出張スヘキノ命ヲ奉ス
小官之レカ首員タリ閣下更ラニ命スルニ這行ノ測量實施ハ陸中國九戸郡三
崎ヨリ陸奥國下北郡尻矢崎ニ至ル海岸ヲ實測スルヲ專トス併ナカラ磐城國

磐前郡豊間村鹽屋埼ハ閘礁アリ未タ其位置確測ナシ近年船舶ノ該礁ニ觸レテ難破スルモノ踵ヲ接ス該礁ノ實測亦急務トナス宜ク途次ニ該礁ノ實測ヲ兼ネ施スヘキ旨ヲ以テセラシ小官等其命ヲ奉シ先ツ測量員ヲ二伍ニ分チ一ハ小官及伊東十六等出仕ト水兵壹名トシ一ハ三浦藤原荒畑ノ三少尉及水兵二名トス而シテ小官ノ伍ハ鹽屋埼閘礁測ヲ兼ネ五月廿八日ヲ以テ東京ヲ出發シ陸路ヨリ磐城國ニ赴キ三浦少尉ノ伍ハ船便ヲ俟テ直チニ兩陸地方ニ派出スヘキニ定ム小官等ハ六月一日磐城國豊間村ニ到著シ直チニ鹽屋埼閘礁測量ニ著手シ而シテ同月十六日ヲ以テ竣功ス該測量事業結果ノ細別左ノ如シ

- 一 基線量定 三千〇〇二尺、三二
- 一 測量海岸線 七里、五
- 一 深淺錘測ノ海面 六方里七
- 一 深淺錘測 二百七處

一 驗潮

一ヶ處九日間

一 經緯度測定

一ヶ處

一 測量人員數

二十六日間

基線ハ豊間村沙濱ニ於テ百英尺ノ量鏈ヲ用ヒテ量定ス
 深淺錘測ハ該地方ノ漁船漕夫六人乗ヲ傭役シ水兵ヲ以テ投錘手トナシ之ヲ施ス驗潮ハ仲ノ作村小灣ニ於テ量桿ヲ植ヘテ水兵ヲシテ十分時毎ニ之ヲ觀測セシム緯度ハ六分儀ヲ用ヒ南北天象高度二十五測ヲ以テ定ム經度ハ内務省地理局日本大三角測々點磐城國菊多郡二ツ石山ヨリ三角測ヲ以テ定ム

此結果ヲ以テ該地方實距離二萬二千八百七十二分一ノ實測圖ヲ組織整頓シ之ヲ以テ即日陸運會社ニ托シ閣下ニ進達ス是ニ於テカ該地ノ事完結セリ依テ翌十七日豊間村ヲ出發シ陸奥地方ニ赴クノ途ニ登ル
 此前三浦少尉ノ伍ハ本月三日ヲ以テ東京ヲ出發シ汽船新瀉丸ニ搭シ函館ニ

到リ又別船ニテ青森ニ渡リ六月九日ヲ以テ陸奥國三戸郡鮫村ニ到着シ直チニ該地以南陸中國北閉伊郡黒埼ニ至ル約四十里ノ海岸ニ於テ三角測點設置ノ業ニ著手ス

小官等ハ同月廿九日陸奥國三戸郡鮫村ニ到着ス先キニ著セル三浦中尉六月廿六日中尉ニ拜スノ伍ハ既ニ設標ノ業ニ著手スト雖モ當時該地方ハ靄霧流行甚シキカ故ニ其業ヲ妨ラレ加之ス地勢樹木茂生シ設標ノ好位置ナキニ苦ミ未タ該事業ヲ果サスシテ各地ニ分派セリ七月二日ニ至リ始テ總員鮫村ニ相會ス是ニ於テ相議スルニ目下靄霧ノ障碍アリテ未タ遠隔地ニ測ヲ及ホス能ハス宜シク先ツ鮫錨地近傍測ト久慈灣近傍測ニ著手シ靄霧ノ間ヲ埃テ徐ロニ測地ヲ擴ムルニ如カスト決シ三浦中尉伊東十六等出仕ニ水兵一名ヲ屬シ一伍トナシ同月五日ヨリ久慈灣ニ分派シ小官ハ藤原荒畑ノ兩少尉ト水兵二名ト俱ニ鮫錨地近傍測ニ從事ス而シテ同月廿五日頃ヨリ靄霧流行稍減少シ三浦中尉ノ伍ハ久慈灣ヨリ漸ク測地ヲ擴メ種市村ニ至ル數十里間ノ三角測ヲ施シ小官ハ鮫

村近傍十數里ノ間三角測ヲ施シ藤原荒畑兩少尉ハ該地方ノ錘測并岸線測ニ從事ス同月廿九日ヨリ小官ハ鮫村ヲ出發シ以北尻矢埼ニ至ル數十里ノ間測點設標ト三角測ヲ兼ネ實施シ八月十五日ニ至リ大略此事業ヲ終ヘ再ヒ鮫村ニ歸著ス此實施ヲ以テ尻矢埼ニ至ル大原點成ル是ニ於テ該地方ノ地勢ト季候トノ見聞スル所ニ依テ考察スルニ八九月ノ中ニ海上深淺錘測ヲ施サ、レハ本年中ニ該地方ノ測量成功期シ難シトナス故ニ三浦中尉ノ伍ヲ久慈灣ヨリ招還シ共ニ相議シテ錘測ヲ急務トシ更ラニ測員ヲ三伍ニ分チ尻矢埼近傍錘測ト小原點測ヲ兼ネ三浦中尉伊東十六等出仕ノ擔任トシ泊村近傍錘測ヲ藤原少尉ノ擔任トシ又鮫村以北小河原沼口ニ至ル迄荒畑少尉ノ擔任トシ各水兵壹名ヲ屬ス而シテ同月廿五日ヲ以テ各其擔任地方ニ分派セリ爾後小官ハ原點補測ヲナシ而シテ九月一日ヨリ距岸約七八里ニ於テ鮫錨地沖ヨリ尻矢埼ノ間一航路ノ錘測ヲ施サント企テ漁船ノ稍大ナルモノヲ備ヒ之ヲ試ミタレトモ風濤又ハ海流ノ爲メニ畢竟其漁船モ其業ヲ施スニ適セス終ニ其企

望ヲ全フセスシテ同月十七日鮫村ニ歸著シ又同月廿二日ヨリ各處ノ緯度并眞方位測ノ爲メ同處ヲ出發シ陸奥國下北郡尻矢崎燈臺上北郡泊村中山崎及三澤村字鹽釜ノ三處ニ巡回實測シ十月九日此測量ヲ終ヘ同月十二日復タ鮫村測員ノ該村ヨリ出テ一事竣レハ輒チ該村ニ復歸スルモノハ始メ該村ニ駐リ定止宿所ヲ設ケ測量ニ著手シタリ而シテ漸ク測地ノ遠隔ナルニ從フテ之ヲ轉セント欲シタレトモ到ル處皆僻村ニシテ第一運搬ニ不便ナルノミナラス公事ノ郵信等一切ノ事ヲ便スルニ此地ノ外ニ移スヘキ所ナシ故ニ此長距離ノ海岸測量ニシテ之ヲ移サ、ルニ據レリ是亦測量事業ニ於テ大ニ不便ヲ與ヘタル一事ナリニ歸著ス其後同月廿二日マテ同處ニ在リテ推算其他ノ事務ヲ整頓シ同月廿三日ヨリ八戸町ニ轉居シ同處電信分局ノ東側ニ於テ可搬子午儀据付處假室ヲ建築シ東京海軍觀象臺ト電信經差測ヲ施行スルノ準備ヲ整理ス又同月三十日太陽金環蝕ニ就キ該測量ノ準備ヲナセリ然ルニ同日曉天ヨリ風雨ニシテ之ヲ測スルヲ得ス翌十一月一日午前初時ヨリ一時半マテ東京觀象臺ト電信直通シテ時辰比較ヲナス以後同月十四日マテ連夜子午儀測ト該電信測ヲ施行セリ

三浦中尉ノ伍ハ十月廿三日ヲ以テ尻矢崎近傍測量ヲ竣リ而シテ陸中九戸郡

ニ於テ僅ニ未測ノ地アリ故ニ其補測トシテ同處ニ再派シ十一月十日該測量ヲ竣リ鮫村ニ歸著ス藤原少尉ハ小田野澤村沖ヨリ鷹架沼口ニ至ル海上深淺錘測并平沼口ニ至ル岸線測ヲ竣リ十一月八日ヲ以テ鮫村ニ歸著ス荒畑少尉ハ鷹架沼口ヨリ市川沖ニ至ル海上深淺錘測并平沼口ヨリ市川ニ至ル岸線測ヲ竣リ十一月十六日鮫村ニ歸著ス小官亦同日ヲ以テ電信測量ヲ竣リ八戸ヲ去リ鮫村ニ移ル是ニ總員相會シ已豫期測量ノ功ヲ竣リ該測量事業ノ總結果ヲ細別スル左ノ如シ

久慈灣 四千九百五十四尺九五
白銀村 二千九百九十九尺七
尻勢村 五千九百三十三尺二五

- 一 基線量定 九十六里
- 一 測量海岸線 五百五十三方里
- 一 深淺錘測ノ海面 千八百六十九處
- 一 深淺錘測 三ヶ處 合四十九日間
- 一 驗潮 壹ヶ處 十四日
- 一 經度電測

一 緯度測定

四ヶ處 合十一日

一 測量 日數

五百六十三日

名

基線ハ陸中國久慈灣ノ沙濱陸奧國三戸郡白銀村沙濱及下北郡尻勞村沙濱ノ三處ニ於テ百英尺ノ量鏈ヲ用ヒテ量定ス深淺鍾測ハ該地方ノ漁船ヲ備役シ水兵ヲ以テ投鍾手トナシ之ヲ施セリ該漁船ハ大小ニ由リ漕夫三人或ハ五人或ハ十餘人ナルモノアリ鍾測ノ業ハ最モ困難ヲ極メリ第一其備船ニ應スルモノナク一々戸長ヲシテ百方説諭セシメ漸クニシテ其村ニ傍ヘル海上ヲ測量スルノ間一船ヲ出スコトヲ肯フニ過キス斯ノ如ク備船ヲ厭フモノハ畢竟該地方海岸ノ漁村ハ皆鱒漁ヲ以テ一年ノ計ヲ得ルモノ、ミ未タ曾テ他ノ備役ヲ頼ンテ生計ヲ營ムモノナシ故ニ人トシテ群魚ノ來去ヲ窺ヒ投網ニ孜々タル者ニ非サルハナシ其好時機ニ投スレハ日々百金ノ利ヲ網スルコトアリ故ニ若シ臨時ノ備役ニ就カハ其好時機ヲ空フスルアラソヲ掛念スルニ在リ是ヲ以テ至ル處皆此苦情アリ亦止ムヲ得サルノ情ナ

リト雖モ是レ大ニ我測業ノ澁滯ヲ致セリ第二ニ該地方ハ低臺形地數十里ニ連リ海上ヨリ目標トナルモノ無ク距岸三四里ニ至レハ標旗ノ如キハ見得ス故ニ測點ハ約徑五尺ノ竹籠ヲ造ラシメ之ニ白布ヲ纏ヒ石灰ヲ以テ白塗シタルモノヲ標トナシタル等俱ニ其事業ヲ施スノ妨害ヲ致セリ
 驗潮ハ久慈灣鮫村尻勞村ノ三處ニ於テ量桿ヲ植テ水兵ヲシテ十分時毎ニ之ヲ觀測セシム經度ハ陸奧國三戸郡八戸電信分局ニ於テ東京海軍觀象臺ト互ヒニ電信裝置時辰儀ヲ用ヒ實測時辰ノ電信比較ヲ施シ經差ヲ測定シテ之ヲ定ム且八戸時辰測ハ内務省地理局ヨリ借受ノ可搬子午儀ヲ以テス緯度ハ總テ六分儀ヲ用ヒ鮫村ニ於テハ南北天象高度四十四測ヲ以テ定ム鹽釜ハ同前五十測ヲ以テシ泊村ハ一百測ヲ以テシ尻矢崎燈臺ニ於テハ一百三十五測ヲ以テ定ム

以上ノ結果ヲ以テ陸中國九戸郡三崎ヨリ陸奧國下北郡尻矢崎ニ至ル全海岸緯度一分ヲ一英寸ニ作リタル全體圖及陸中國久慈灣陸奧國鮫錨地并尻矢崎

十七級	一圓四錢	十九錢四厘	卅九級	一圓六錢	十二錢六厘	六十一級	七十二錢	七錢二厘	八十三級	二十八錢	二錢八厘
十八級	一圓六錢	十八錢八厘	四十級	一圓四錢	十二錢四厘	六十二級	七十錢	七錢	八十四級	二十六錢	二錢六厘
十九級	一圓八錢	十八錢三厘	四十二級	一圓三錢	十二錢三厘	六十三級	六十八錢	六錢八厘	八十五級	二十四錢	二錢四厘
二十級	一圓七錢	十七錢六厘	四十三級	一圓十錢	十一錢	六十四級	六十六錢	六錢六厘	八十六級	二十四錢	二錢二厘
廿一級	一圓七錢	十七錢	四十三級	一圓八錢	十錢八厘	六十五級	六十四錢	六錢四厘	八十七級	二十錢	二錢
廿二級	一圓六錢	十六錢四厘	四十四級	一圓六錢	十錢六厘	六十六級	六十二錢	六錢二厘	八十八級	十八錢	一錢八厘

(十七年丙第五十號)
技術官判任以下停業時間外增働料支給定規

判任	外等	給日
工業時間外出勤或ハ居殘ノ節並一般公休日ニ出勤スルトキハ總テ一時間ニ付一日加俸十分ノ一ヲ支給ス 但停業中就業スルコト一時間以上ハ支給スト雖モ以下端時間ハ給セス	停業時刻ヨリ午後十時マテ午前四時ヨリ起業時刻マテ就業ノモノヘハ一時間ニ付日給十分ノ一ヲ給ス 午後十時ヨリ午前四時マテ就業ノモノヘハ一時間ニ付日給二十分ノ三ヲ給ス 休息時間中就業ノモノヘハ日給二十分ノ一ヲ増給ス 休日出勤ヲ命スルモノハ現日給ノ外一時間ニ付日給二十分ノ一ヲ増給ス	休日出勤ヲ命スルモノハ現日給ノ外一時間ニ付日給二十分ノ一ヲ増給ス

雇	工	職	夫	搬運
休日時間外ノ就業給與方ハ平常ニ異ナルコトナシ	停業時刻ヨリ午後七時マテ就業ノモノヘハ一時間ニ付日給十分ノ一ヲ給ス 午後七時ヨリ同十時マテ午前四時ヨリ起業時刻マテ就業ノモノヘハ一時間ニ付日給二十分ノ三ヲ給ス	午後十時ヨリ午前四時マテ就業ノモノヘハ一時間ニ付日給五分ノ一ヲ給ス 休息時間中就業ノモノヘハ日給二十分ノ一ヲ増給ス	休日出勤給與方ハ平常ニ異ナルコトナシ	休日出勤給與方ハ平常ニ異ナルコトナシ

明治十七年

第七號(三月)

海軍水路局學舍規則

第一條

海軍水路局學舍ハ海軍測量生徒ト爲ル可キ生徒ヲ教育スル所トス

第二條

學舎長一人佐官ヲ以テ之ニ充テ水路局長ノ命ヲ受ケ舎内諸員ヲ指揮シ主管事務ヲ擔任ス

第三條

舎長ハ學術教授ノ方法ヲ遵守シ常ニ其得失ヲ考察シテ意見アラハ之ヲ局長ニ具申ス可シ

第四條

舎長ハ時々教場ヲ巡檢シ又教官ヲ會シ教授ノ方法ヲ諮議シ務テ生徒ヲシテ學術進步ノ便益ヲ得セシムルヲ要ス

第五條

舎長ハ毎試験ノ後其成績表ニ自己ノ意見書ヲ附シ之ヲ局長ニ呈スヘシ

第六條

舎長ハ毎月末生徒ノ勤惰表ニ自己ノ意見書ヲ附シ之ヲ局長ニ呈ス可シ

第七條

學舎ニ教官若干人ヲ置キ佐官尉官或ハ文官ヲ以テ之ニ充テ舎長ノ指揮ヲ受ケ各科ノ教授ヲ分掌セシム

第八條

學舎監事若干人ヲ置キ教官中ヨリ之ヲ兼テシメ舎長ノ指揮ヲ受ケ生徒ノ容儀品行ヲ監察シ其他總テ生徒ノ身上ニ關スル事務ヲ擔任セシム

第九條

學舎ニ屬僚若干人ヲ置キ舎長ノ命ヲ受ケ舎内ノ庶務ヲ掌トラシム

第十條

海軍水路生徒ハ華士族平民中其年齡滿十六年以上二十年以下ニシテ海軍出身志願ノ者ヨリ選抜ス

第十一條

生徒ハ定員十人トシ之ヲ甲乙二種ニ分ツ而シテ甲種卒業スル毎ニ乙種ヲ甲

種ニ進メ乙種ヲ更ニ召募スルヲ例トス

但シ病死其他ノ事故ニテ缺員ヲ生スルトキハ臨時ニ召募シテ之ヲ補フコトアルヘシ

第十二條

生徒ハ拜命ノ日ヨリ官費トシテ食料ヲ給シ被服及必要ノ物品等ハ渾テ現品ヲ給與スヘシ

第十三條

生徒ハ拜命ノ日ヨリ海軍籍ニ編入シ學舍規則ニ服從セシメ卒業ノ後ハ必ス海軍水路局ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲ爲サシム

第十四條

生徒ノ學期ハ五期即チ五ケ年トス其一期ヲ冬夏ノ二季ニ分チ冬季ハ毎年九月十五日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終リ夏季ハ毎年四月十五日ニ始リ七月三十一日ニ終ル者トス而シテ其第一期ヨリ第三期迄ハ坐學ニテ原理ヲ修メ

第四期第五期ハ例年出測ノ局員ニ隨從シ實業ヲ修メシム

但シ其出張ニ關スル諸費用ハ一切現費ヲ以テ支給スヘシ

第十五條

生徒學期中疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ由リ課程ヲ踐ミ難クシテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ詮議ノ上尙ホ若干時日或ハ一期ヲ延スコトアリ

第十六條

生徒ノ學科ハ皇漢學英學數學(四術ヨリ微積分ニ至ル)地理學物理學天文學測候學風潮學磁針學航海學量地學測天海測學製圖學水路記事編述法ノ十五科トス

第十七條

生徒ハ修學中受ク可キ試驗左項ノ如シ

第一 小試驗

此試驗ハ毎月臨時ニ教官之ヲ行フ

第二 中試験

此試験ハ毎年冬夏二季即チ三月七月終講ヨリ二週日ノ後ニ舎長臨監シ
教官之ヲ行フ

第三 前大試験

此試験ハ第一期半即チ就學ヨリ一ケ年半ノ後ニ舎長臨監シ教官之ヲ行
フ

第四 後大試験

此試験ハ第四期即チ就學ヨリ四ケ年ノ後ニ水路局長之ニ臨ミ舎長之ヲ
監シ教官之ヲ行フ

第五 終期大試験

此試験ハ第五期即チ就學ヨリ五ケ年ノ後ニ水路局長之ニ臨ミ舎長之ヲ
監シ教官之ヲ行フ

第十八條

生徒ハ前後大試験及ヒ終期大試験ノ成績點數ヲ合算シ其多寡ニ因リ卒業ノ
順序ヲ定ム

第十九條

生徒大中試験ニ於テ及第ノ格例及ヒ其等級ヲ定ム
左項ノ如シ

第一 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點
數ノ十分ノ八以上ヲ得タル者ヲ一級トス

第二 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點
數ノ十分ノ六以上ヲ得タル者ヲ二級トス

第三 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點
數ノ十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ三級トス

第二十條

生徒試験及第ノ者ニ授與ス可キ證書左項ノ如シ

第一 及第證書

此證書ハ大中試験及第ノ者ニ授與ス

第二 卒業證書

此證書ハ終期大試験及第ノ者ニ授與ス

第二十一條

及第證書ハ水路局長之ヲ授與シ卒業證書ハ海軍卿臨席シ水路局長之ヲ授與ス

第二十二條

生徒學術優等才能拔群ニシテ出測ノ任ニ堪ユヘキ目的アル者ハ終期迄ノ年月ヲ待タス臨時ニ大試験ヲ行ヒ卒業證書ヲ與フルノ後水路局員ニ採用スルコトアルヘシ

第二十三條

生徒大試験ニ於テ二回中試験ニ於テ三回續テ落第スル者ハ之ヲ免ス

第二十四條

生徒中試験ニ落第スト雖モ豫テ小試験優等ノ者又ハ第十五條ノ事故アルモ定期ノ中試験ヲ受ケタル者ニシテ特別ノ目途アレハ詮議ノ上温習時日ヲ與ヘ再試験ヲ行フコトアリ

第二十五條

生徒前大試験ニ落第スルトキハ三ヶ月ノ後大試験ニ落第スルトキハ一ケ年ノ後ニ再試験ヲ行フ者トス

第二十六條

生徒學期中定式休業ハ毎年祝祭日日曜日及ヒ四月一日ヨリ同十四日マテ八月一日ヨリ九月十四日マテ十二月二十五日ヨリ翌年一月十日マテトス

第二十七條

生徒休業中ノ外ハ旅行或ハ歸省ヲ許サス然レトモ父母看病ノ爲メ歸省スルハ此限ニアラス

第二十八條

生徒父母看病ノ爲メ歸省ヲ願フトキハ海軍生徒乞暇手續ニ照準シ願書ヲ出ス可シ

第二十九條

生徒疾病ニ因リ出席シ能ハサルトキハ必ス身元引受人ノ證書ヲ添ヘ舍長ニ届出ツ可シ

但シ闕席三日以上ニ及フトキハ更ニ醫員ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第三十條

生徒ハ自ラ之ヲ辭スルヲ許サス然レトモ一家ノ安危ニ係ル事故アル者ニ限リ身元引受人ヨリ其理由ヲ詳細ニ記載シ本籍府縣廳全戸寄留ノ者ハ其府縣廳ノ添書ヲ以テ出願スルコトヲ得

第三十一條

生徒ニシテ左項中ノ一ニ該ル者ハ之ヲ免ス

第一 品行不正或ハ怠惰ニシテ屢々訓戒ヲ加フルモ之ヲ改メサル者

第二 小試験ノ成績屢々不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者

第三 傷疾疾病等ニ罹リ前途ノ目的ナキ者

第三十二條

生徒ニシテ第二十三條第三十條及ヒ第三十一條第一項ニ據リ之ヲ免レタル者ハ其日ヨリ六十日ヲ限リ身元引受人ヲシテ其修學中ノ費用ヲ償還セシム

第三十三條

生徒ハ第十條ニ基キ水路學舎ニ於テ身體檢查及ヒ學科試験ノ上召募スルヲ例トス

第三十四條

生徒召募ノ期限及ヒ人員其他檢查試験ノ時日科目等ハ豫メ之ヲ水路局ヨリ廣告ス

第三十五條

生徒志願ノ者ハ東京府下住居ノ父兄親族其他一家ヲ成ス者二名ヲ身元引受人ト爲スヘシ而シテ其一名ハ土地家屋ヲ有スル者ニ限ル

第三十六條

生徒志願ノ者ハ第一號ノ願書ニ第二號ノ誕辰證書及第三號ノ履歷書ヲ添ヘ東京府廳ノ奥書ヲ受ケ身元引受人ヨリ水路局ニ出スヘシ

○第一號願書式 用紙美濃紙ニツ折正副

海軍水路生徒願

何府縣華士族平民

戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

東京何區何町何番地住或ハ寄留

姓 名

右之者海軍出身志願ニ付今般御検査ノ上水路生徒ニ御採用相成度候様其筋へ御申立被下度仍テ誕辰證書並履歷書相添へ此段奉願候也

年號 月 日

何府縣士族平民

東京何郡區何町何村何番地住或ハ寄留

身元引受人 姓 名印

同

同

同 姓 名印

東京府知事姓名殿

前文願之趣相違無之候條御試験之上御取捨有之度候也

年號 月 日 東京府知事 姓 名印

海軍水路局長官姓名殿

○第二號誕辰證書式 用紙美濃紙ニツ折正副

誕辰證書

何府縣華士族平民

姓

名印

一 出生地名年號月日

一 年齡何年何月何ヶ年何ヶ月

右之通相違無之候也

年號 月 日

身元引受人

姓

名印

全

全

前書保證候也

年號 月 日

何府縣何郡何町村

姓

名印

本籍ノ區戶
長ニ限ル(朱書)

區戶長

○第三號履歷書式 用紙美濃紙
二ツ折

履歷書

何府縣華士族平民

姓

名印

生長ノ地名及ヒ教育ヲ受タル學科年月校塾師名其他技藝職業及ヒ賞罰等ア
ラハ詳細ニ記載スヘシ
右之通相違無御座候也

年號 月 日

身元引受人

姓

名印

同

同

第三十七條

生徒志願者ノ身體検査ハ舍長之ニ臨ミ監事列席シ海軍醫官之ヲ行フ而シテ
合格ノ者ニ非サレハ學科試験ヲ行フコトナシ

第三十八條

生徒志願書ハ身體検査ノ際左ノ身體證書ヲ水路學舎ニ出ス可シ
○身體證書

- 第一 發作性ノ疾病無之候事
 - 第二 狹窄症内痔症其他自己識得ノ疾病及遺傳ノ疾病無之候事
 - 第三 曾テ何等ノ病痾舊創ニ由リ患フル所無之候事
- 前書之通相違無之候也

年號 月 日

姓 名印

第三十九條

生徒志願者ノ學科試験ハ舍長臨監シ教官之ヲ行フ而シテ其及第中優等ノ者ヲ選拔シ水路生徒ヲ命スル者トス

第四十條

生徒ヲ命スルト否トハ其旨水路局長ヨリ東京府廳ヲ經テ身元引受人ニ達ス

第四十一條

生徒ヲ命セラル可キ者ハ第一號身元引受證書ニ第二號族籍證書ヲ添ヘ身元引受人ヨリ水路局ニ出ス可シ

○第一號 身元引受證書用紙證券 罪紙
身元引受證書

何府縣華士族平民
戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

姓 名印

何年何月何年何ヶ月

右之者海軍出身志願ニ依テ御試験ノ上今般水路生徒ニ御採用被成下候ニ付テハ本人身上ノ儀ハ何事ニ不限私共引受ケ御規則之通御處分相受可申候尤モ私共之内公事出張私事旅行等致候節ハ必ス代人相立御差支無之様可仕候仍テ證書如件

年號 月 日

何府縣華士族平民

東京何郡區何町何番地住或ハ寄留

身元引受人

姓

名印

同

同

同

姓

名印

海軍水路局長官姓名殿

○第二號

族籍證書

用紙美濃
紙ニツ折

族籍證書

姓

名

原籍

何府縣華士族平民戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍(朱書)

住所

國郡區町村ノ番地ヲ詳記ス寄留ノ者寄留先ノ住所モ亦詳記スヘシ(朱書)

父母名

兄弟名

姉妹名

祖父母名

養子ハ養實共ニ之ヲ記シ亡ナレハ亡ト記シ父兄官位勳アレハ存亡共ニ之ヲ記ス可シ養子ハ養實共ニ之ヲ記シ亡ハ記セスシテ可ナリ(朱書)

前書之通相違無之候也

年號 月 日

身元引受人

姓

名印

同

姓

名印

前書保證候也

年號 月 日

何府縣何郡何町村

本籍ノ區戸
長ニ限ル (朱書) 區戸長

姓

名印

第四十二條

生徒ヲ命スル者ニハ水路學舎ニ於テ左式ノ辭令書ヲ附與ス

拜命番號

何府縣華士族平民

姓名

海軍水路生徒申付候事

年號 印 月 日

海軍水路局

第四十三條

水路生徒ヲ命シタル者ハ第十三條ノ趣旨ニ基キ左ノ如ク誓約帖ニ署名捺印シ其志操ノ確實ヲ證セシム

誓約書

海軍出身志願ニ依テ今般水路生徒被命候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守卒業ノ後ハ他事ヲ顧ミス誓テ海軍水路局ニ從事可仕候仍テ誓約如件

姓名 姓名 名印 名印

明治十七年

第八號(四月)

元水路局測量生徒人員

(海軍省內局統計課ノ需ニ依リ調査シタルモノ)

府縣名	族籍	姓	名	生徒申付月日	卒業及退寮年月
鹿兒島	士族	林	昌澄	五年十一月	八年十一月水路寮等外三等出仕申付

鹿兒島	士族	三原重業	五年十一月	八年十一月水路寮等外三等出仕申付
同	同	西喜助	同	六年十二月病氣退寮(朱書)
石川	同	磯野健	同	六年十一月補水路寮十五等出仕
同	同	鶴見氏智	同	八年一月水路寮等外三等出仕申付
岐阜	同	鈴木環	同	同 同 等外一等出仕申付
同	同	高野瀨廉	同	同 補水路寮十五等出仕
木更津	同	青木稻藏	同	六年四月病氣退寮(朱書)
静岡	同	秋山義邦	同	七年七月病氣退寮(朱書)
東京	同	古川行春	同	六年十月病死(朱書)
高知	同	武藤喜平次	同	八年十一月水路寮等外三等出仕申付
柏原	同	小林春三	同	同年一月同 等外一等出仕申付
筑摩	同	關文炳	同	八年九月同 等外二等出仕申付
山口	同	藤本治信	同	八年一月同 等外一等出仕申付

同	同	三戸四郎	同	六年十月病氣退寮(朱書)
三重	同	小棕元吉	同	八年一月水路寮等外二等出仕申付
佐賀	同	大木延建	同	同 補水路寮十五等出仕
同	同	藤原信高	同	同 補水路寮等外三等出仕申付
白川	同	丸山重俊	同	七年八月不採ノ儀有之退寮(朱書)
鹿兒島	同	有川貞白	同	八年九月水路寮等外二等出仕申付
濱松	同	雨宮原一	同	八年一月同
鳥取	平民	山内寛	同	七年四月退寮(朱書)
鹿兒島	士族	山口亨藏	同	七年八月退寮(朱書)
筑摩	同	大山節郎	同	八年一月水路寮等外二等出仕申付
石川	同	田中源太郎	同	八年一月補水路寮十五等出仕
濱松	同	荒畑岩次郎	同	同上

右生徒ノ内病氣退寮ノ者モ不少ニ付七年九月其闕ヲ補ハンコトヲ本省へ上請ス即秘三套貳百三十九號ヲ以テ其寮生徒自今補闕セストノ指令アリ同八年一月何レモ判任及等外出仕拜命ス但シ關有川林三原武藤ノ五名ハ九月十一月ノ間ニ至リテ等外出仕ヲ命セラル是レ當時艦船ニ乗組シヲ以テナリ

編者曰フ右ノ生徒出身中海岸測量事業ニ在リテハ有川少將高野瀨荒畑ノ二水路大監測天事業ニ在テハ磯野少佐最モ功績多ク其他鈴木ハ海軍水路大監ニ小椋ハ海軍少佐ニ林三原武藤小林關大木藤原ハ海軍大尉ニ田中ハ海軍少尉ニ進ミ其他ハ武員ニ採ラレス或ハ他ニ轉シ或ハ病死ス右ノ内關大尉ハ清國ヨリ歸途ノ途次朝鮮所安島沖ニ於テ出雲丸沈没ノ際溺死シ田中少尉ハ十七年隱岐ノ測量地ニ於テ自盡シ退寮ヲ命セラレタル丸山重俊ハ今ノ韓國警務總長ナリ

明治十七年

第九號(五月)

弊社所有汽船瓊浦丸船長英人カロー明治十四年中北海道東部海岸航海中御局御印行之海圖ニ據リ實測致候處間々差違ヲ生シ其都度訂正ヲ加ヘ別紙之通製圖仕候旨ヲ以テ同船長ヨリ差出申候間御參考之爲メ呈供仕候就而ハ右十四年以降御改正相成候新圖モ被爲有候ハ、尙爲心得拜見爲仕置度候間何卒御下渡被仰付候様仕度別紙圖面添此段上申旁奉願候也

明治十七年五月廿六日

郵便汽船三菱會社

海軍省水路局御中

三菱會社船長取調

北海道東部原圖(圖面略ス)

明治十七年

右御達ヲ奉シ英版並局版ノ二圖ニ照ラシ調査仕候處該所ノ圖ニ於テハ多クハ略測或ハ走測ニ類スルモノナレハ局版未タ必シモ皆非ナラス彼船長ノ取調及英版未タ必シモ是ナラス就中得撫島擇捉島ノ如キニ至テハ三圖各々其位置ヲ異ニシ何レヲ以テ判然正確ノモノト證明仕リカタキハ別紙引證ニテ明瞭ニ有之候然レハ右船長ヨリ差出タル圖ハ他日測量ノ參考ニ供セン爲メ先ツ御留置相成可然奉存候此段申出仕候也

十七年五月三十一日

石川圖誌課副長

高野瀨海軍中尉

伴水路局副長殿

(別紙)

千島列島位置未詳之引證
擇捉島葺取之位置


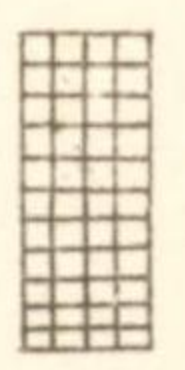
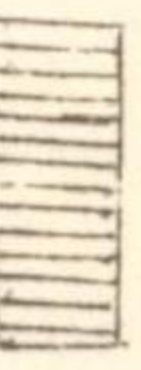
右東部ノ圖ニ據レハ別飛府ヨリ北東四分三北ニ在リ而シテ此兩間ニ最モ突出スル地頭ハ又別飛府ヨリ約北々東二分一東ニ在リ然ルニ該圖編成ニ關スル航海日誌ニ據レハ大坂丸ハ別飛府ヲ發シ五分間ヲ出スシテ針路ヲ東北東ニ取り一時間航走六里ニシテ東北東二分一東ニ轉シ一時二十分間ニシテ又東北東二分一北ニ轉シ一時四十分間ヲ航ストアリ此航走合里廿二里ナリ今之ヲ最外ノ方位ニ當ルモ此航線ノ陸ニ入ルコト六里餘ナリ此圖ノ測量ニ關スル航海日誌ニシテ此齟齬アリ此尤モ葺取ノ位置ノ現在地ヨリハ北ニ偏スルヲ疑フ所ナリ

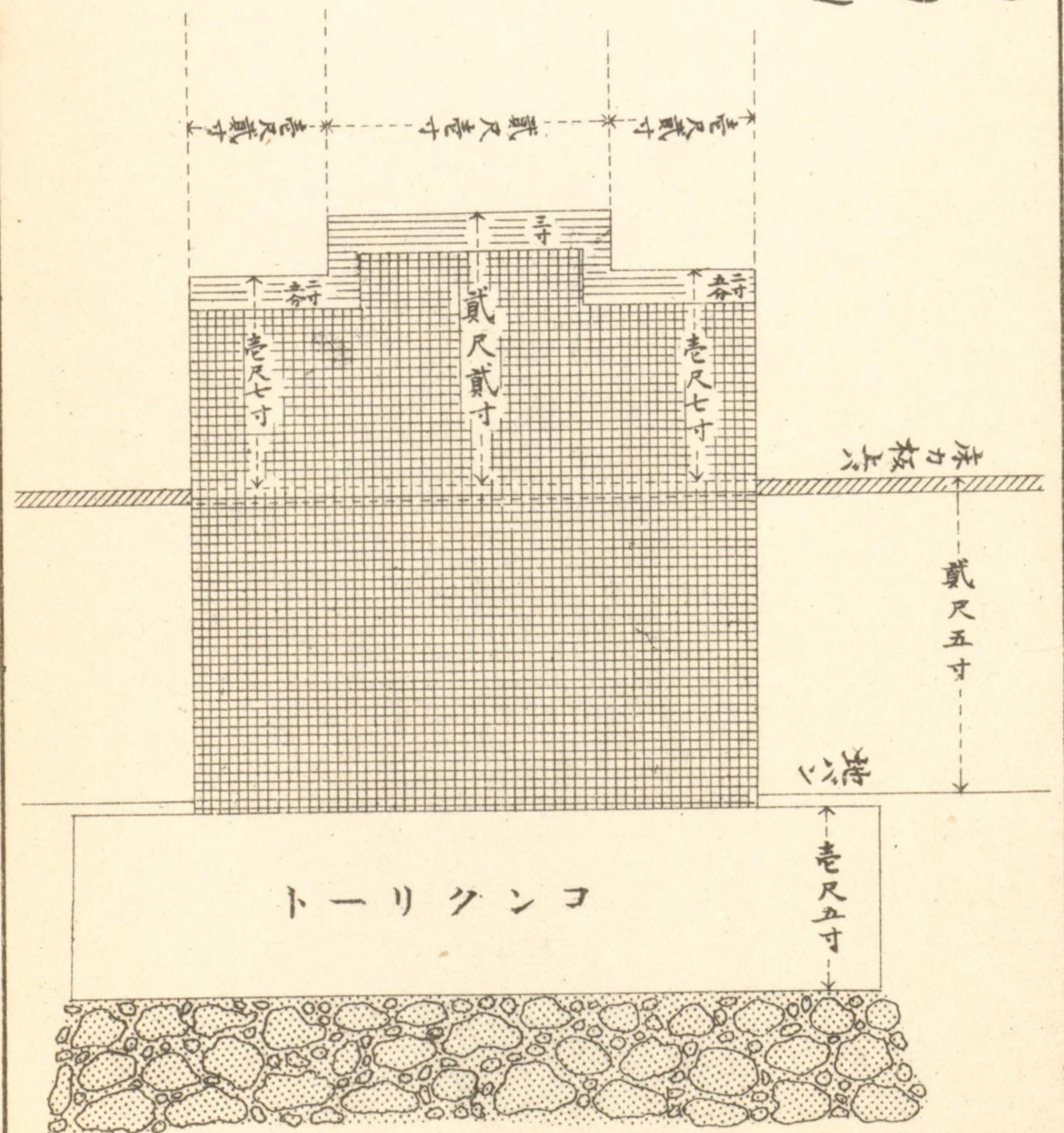
因ニ云東部圖中ニ曰ク測量ノ際其標準トスヘキ山岳岬嶼多クハ煙霧ノ爲メニ認メ得スト然レハ其位置ニ多少ノ差異アルハ固ヨリ免ル能ハサル所ナリ

然ルニ圖上葺取ノ位置ハ經緯度測ヨリ成リ三菱船長ノ言フ所ハ單ニ方位測ニ止マル故ニ測量ノ種類ヨリ言ヘハ東部ノ圖ヲ正當トスト雖モ現場ノ航跡

圖ノ積石化煉内間所藏貯儀線經

一分五十二

 木造
 煉瓦造
 石造



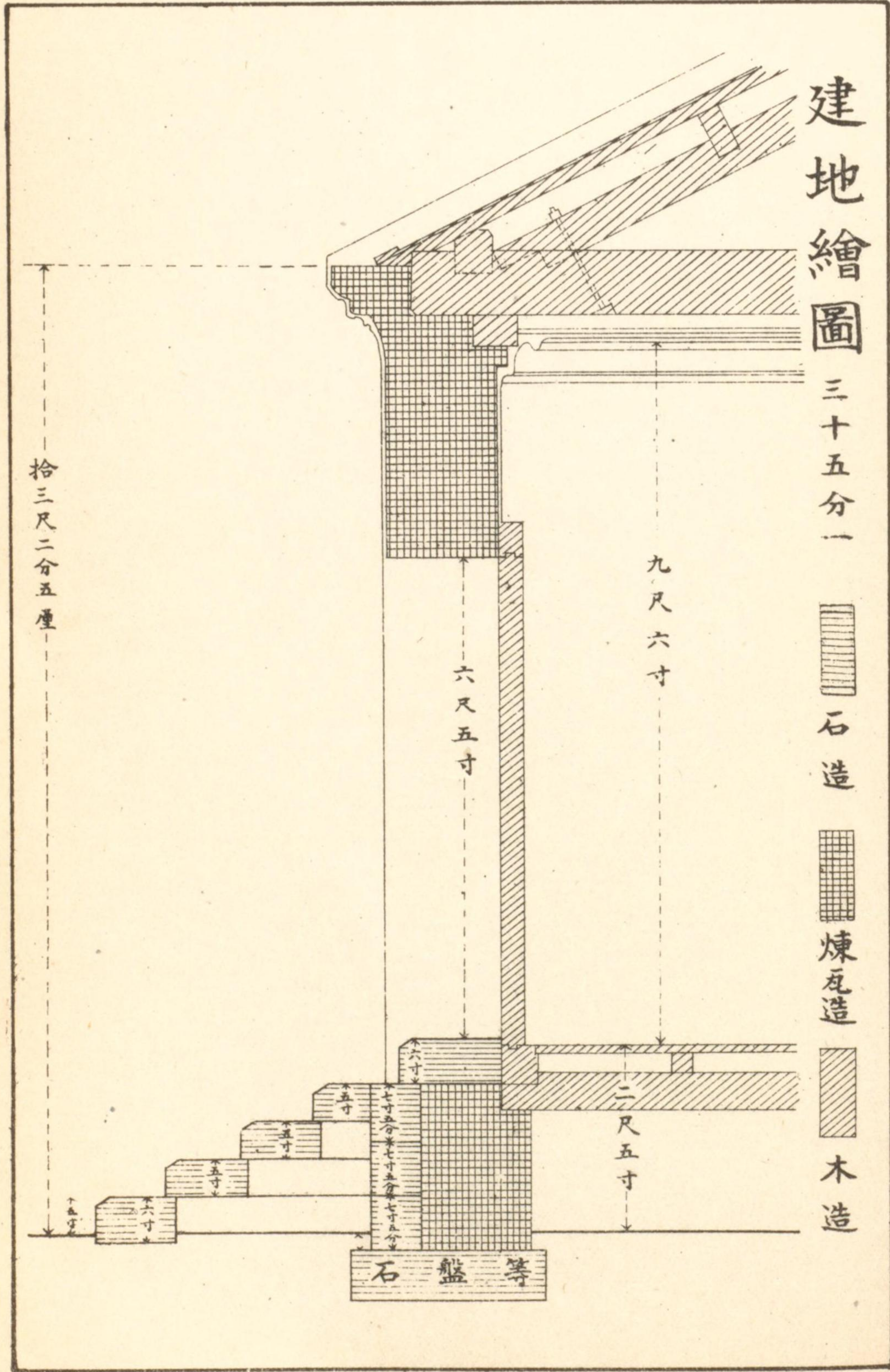
建地繪圖

三十五分一

石造

煉瓦造

木造



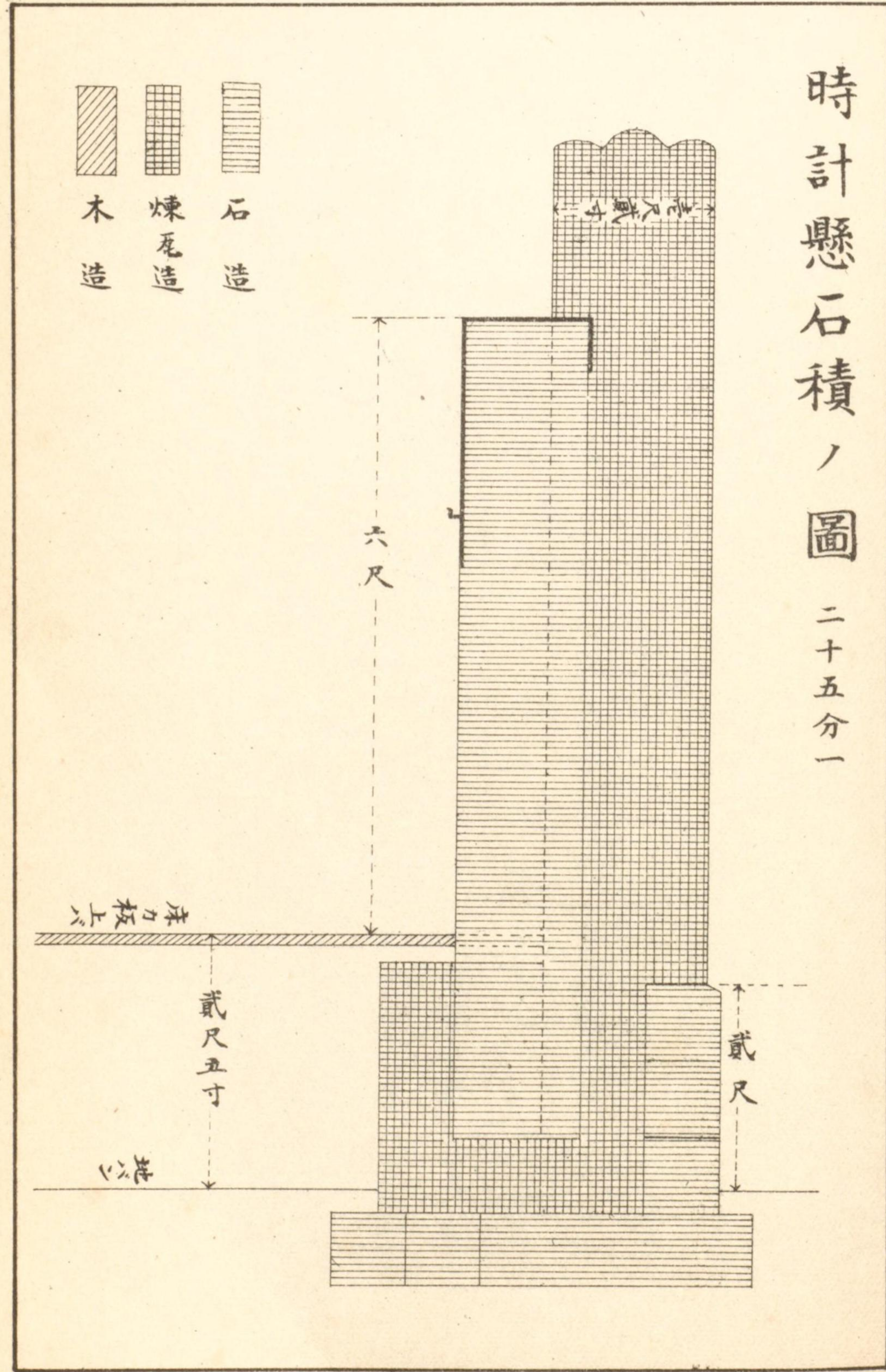
拾三尺二分五厘

六尺五寸

九尺六寸

二尺五寸

石盤等



時計懸石積ノ圖 二十五分一

明治十七年
第十三號(十月)

艦名	排水積	製造地名	製造月數	起工年月	竣工年月
天 竜	千四百九十	横 須 賀	○	○	十七年一月
葛 城	千四百七十七	同	三十ヶ月	十六年八月	十九年一月
武 藏	千四百七十七	同	三十ヶ月	十七年六月	十九年十二月
大 和	千四百七十七	小 野 濱	三十ヶ月	十六年七月	十八年十二月
高 雄	千七百五十	横 須 賀	三十六ヶ月	十七年一月	十九年十二月
大砲艦 甲	六百二十五	小 野 濱	二十ヶ月	十七年十一月	十九年七月
同 愛宕 乙	六百二十五	横 須 賀	二十四ヶ月	十八年六月	二十年五月
同 丙	六百二十五	未 定			
浪 速	三千五百	ニウカストル アルムストロンガ	十八ヶ月	十七年五月	十八年十月

明治十七年

高千穂	三千五百	ニウカストル	二十一ヶ月	十七年五月	十九年一月
畝	三千六百十五	セイネフォルチ	二十四ヶ月	十七年六月	十九年五月

明治十七年

第十四號(十月)

鋼製巡洋戰艦壹艘、可備付外國注文測器明細表

一 經線儀 洋名 Chronometer. 五 個

代價英貨貳百拾磅 但壹個ニ付 英貨四拾貳磅

英國 リバーホール府トマス・ロッセル、エンド、ソン社製造
Liverpool Thomas Russel & Son.

右ハ落成ノトキ内府觀象臺長ハルトナップ氏ノ試驗ヲ要ス(朱書)

一 甲板時計 洋名 Deck Watches. 貳 個

代價英貨參拾七磅拾六志 但壹個ニ付 拾八磅拾八志

一 八角時計 洋名 Clock. 六 個

代價英貨六磅 但壹個ニ付 壹磅

一 端船羅針 洋名 Boat Compass. 七 個

デント器械目錄百九號

代價英貨四拾九「ギニー」 但壹個ニ付 七ギニー

同百十一號

一流動航用羅針 洋名 Liquid Steering Compass. 一 個

代價英貨拾「ギニー」

一定基羅針 洋名 Standard Compass. 壹 個

右附屬品

外ニ臺 壹 個

此代價凡英貨拾壹磅

文字板 A 一 ツ

文字板 J

一ツ

メタールヒポットニ屬ス

四ツ

ルービー同ニ屬ス

二ツ

豫備ノカップ

一ツ

タライポット

一ツ

タライポットアーム

一ツ

アシミスサルクル

一ツ

マグネヒヤングラス

一ツ

代價英貨貳拾六磅五志

此ノ器落成ノトキハ英國海軍羅針局長大佐ウキルリヤム、メース

氏ノ試験ヲ要ス(朱書)

一航用羅針

洋名 *Steering Compass*

貳個

右附屬品

外ニ臺

壹個

此代價凡英貨拾壹磅

文字板 A

二ツ

同 J

二ツ

メタールヒポット

四ツ

ルービー同

四ツ

豫備ノカップ

一ツ

代價英貨貳拾「ギニー」但壹個ニ付 拾「ギニー」

此ノ器落成ノトキハ英國海軍羅針局長大佐ウキルリヤム、メース氏ノ
試験ヲ要ス(朱書)

右六廉ハ英國

ストランド府イデーデント

社製造

カセラ器械目錄八百六十號

一六分儀

洋名 *Sextant.*

參個

代價英貨參拾四磅拾志 但壹個ニ付 拾壹磅拾志

同 八百七十八號
一 水銀盤 洋名 Artificial Horizon. 壹 個

代價英貨參磅拾五志

同 百五十六號

一 海底溫度器 洋名 Deep-sea sounding thermometer. 貳 個

代價英貨五磅 但壹個ニ付 貳磅拾志

同 九百十八號

一 天測羅針 洋名 Best, Prismatic Azimuth Compass 壹 個

代價英貨五磅五志

此ノ器械落成ノトキハ英國海軍羅針局長大佐ウキルリヤム、メース氏ノ試驗ヲ要ス(朱書)

一 木製水程儀 洋名 Logships 參 個

代價不分明

同 一千〇〇號

一 機器水程儀 洋名 Walker's Patent Harpoon Ship log 貳 個

代價英貨五磅五志 但壹個ニ付 貳磅拾貳志六邊

同 七百二十四號

一 圖引道具 洋名 Set of Electrum instrument, in rosewood case. 參 個

代價英貨拾五磅 但壹個ニ付 五磅

一 投 鉛 洋名 Sounding lead. 拾 個
大重サ三十磅 一ツ
中同十四磅 二ツ
小同七磅 七ツ

代價英貨不分明

同 千〇〇四號

一 托水機器 洋名 Walker's Patent Sounding machine. 二 個

代價英貨五磅五志 但一個ニ付 二磅拾二志六邊

同 四十二號

一 寒暖計 洋名 Minimum thermometer. 三 個

代價英貨二磅六志六邊 但一個ニ付 拾五志六邊

同 二千八百八十二號

一 繪具入箱 洋名 Best Japaned sketching cases.

壹 個

代價英貨拾八志

右拾一廉ハ英國倫敦

「ホルバローロン、ゴールスエール、カセラ」
Holborn Bars L. Cassella. 製造

ネグレットゾンアラ器械目錄七百〇五號

一 六分儀臺 洋名 Sextant stand.

一 個

代價英貨五磅五志

同 千二百五十九號

一 用端船 双眼 洋名 Field glass.

七 個

代價英貨三十一磅拾志

但壹個ニ付 四磅十志

同 千二百六十一號

一 本艦 双眼 洋名 Binocular field glass.

四 個

代價英貨二拾九磅八志

但壹個ニ付 七磅七志

同 千二百九十九號

一 望遠鏡 洋名 Midshipman's telescope.

四 個

代價英貨拾二磅拾二志 但壹個ニ付 三磅三志

同 百八十六號

一 水銀時雨儀 洋名 Fitzroy's marine gun Barometer

三 個

代價英貨拾六磅拾志 但壹個ニ付 五磅拾志

此ノ器落成ノトキハ英國キウ觀象臺長ダブリユー、ホワイブル試驗ヲ

要ス(朱書)

同 七百九十號

一 砂時計 洋名 Sand glass.

七 個

代價英貨壹磅拾五志 但壹個ニ付 五志

同 三百九十一號

一 試鹽儀 洋名 Salinometer

二 個

代價英貨二磅拾志 但壹個ニ付 壹磅五志

右七廉ハ英國倫敦

「ホルバローロン、ビヤダクト、ネグレット、ゾンアラ」
Holborn viaduct Negretti & Zambra.

社製造

ベツク器械目錄五百九十五號

一 亞氏晴雨計 洋名 Aneroid Barometer

四 個

勤務

准判任御用掛
月給十二圓

北川恒太郎

同

雇
月給十二圓

久能善次郎

以上 但使丁以下十八名ハ省略ス

編者曰ク關三浦兩中尉ハ軍事部ヘ有川中尉ハ艦船ヘ轉勤シ居崎田中ノ兩少尉ハ死去ノ爲メ武員五名ヲ減シタルモ前田中尉ノ艦船ヨリ來リ又坂口外四名ノ雇員ヲ得タル爲メ僅ニ其欠ヲ補ヒタリ

測量

本年局員ヲ派出シテ測量セシムルモノ分テ大測二行之ヲ甲乙トシ小測二行之ヲ丙丁トス其甲行ノ區域ハ豊後日向土佐伊豫周防ノ諸海岸ニシテ明治十三年及十五年既測ノ區域ヲ擴延シ日本内海ノ偏西部及豊後水道土佐日向ノ諸海道ヲ明ニス乙行ハ隱岐伯耆出雲ノ諸海岸ニシテ中土北岸中部ヲ明ニス共ニ海防及航海ノ便益ヲ圖ルニ在リ丙行ハ工部省ノ需ニ應シテ橫濱港内ヲ

測量シ丁行ハ尾張三河ノ沿岸形勢ヲ探明セリ此甲乙丁ニ消費スル全額ハ壹萬七千六百六拾圓貳厘トス左ニ其測量成績ヲ表記ス

測量成績

國名及地名	測地境界經緯度	測量區域水深錘測ノ方里面積海面方里	水深錘測ノ個數	深岸線ノ里數	驗潮日數	自著手至竣工日數	人員	
自豊後國鶴崎至日向國岩鼻	自北緯三十二度廿四分至東經百三十一度四十分	六八一	三七〇	三、〇四二	一七四	九〇	一〇八	五
自土佐國甲ノ浦至伊豫國高茂崎	自北緯三十二度三十九分至東經百三十二度四十分	五九三	三六五	二、八八三	一六九	六七	一七一	五
隱岐國全島	自北緯三十五度五十五分至東經百卅三度三十一分	五七八	四九四	五、一八六	一八四	七七	一〇三	八
日向國油津及外浦	自北緯三十五度四十二分至東經百三十三度三十一分	二六	二〇	八五八	二九	二〇	二六	五
自出雲國手結崎至伯耆國御來屋	自北緯三十五度四十二分至東經百三十三度三十一分	四一一	二六九	二、〇〇一	一五八	六八	九〇	七
三河海灣内師崎水道及衣浦	自北緯三十五度四十二分至東經百三十三度三十一分	三三三	二二三	六五〇	二九	一二	三一	二

自周防國島田川	自北緯三十三度四十八分	七五八	四七五	三、五八一	二二八	五一	八四	九
至長門國下ノ關	自東經百三十一度二分							
海峽東口	至同百三十一度五十四分	二	二	一、四三四	二	二八	四〇	三
東京海灣內橫濱								
自三河國宮崎村	自北緯三十四度四十分	七二	四六	四五〇	四一	六	四三	二
至尾張國大井村	自東經百卅六度五十四分							
合 計	至同百三十七度七分	三二四	二、〇六四	二、〇八五	一、〇〇四	四一九	六九六	四六

觀 象

本年間原基星時經線儀改率ノ測量ヲ爲ス七十八回子午儀赤道中間時ノ測量ヲ爲ス十一回彗星ノ位置ヲ測ル十五回日蝕及月蝕ノ測量ヲ爲ス各一回トス又電信ヲ以テ經度聯接測量ヲ爲ス二箇所一ハ日向延岡ト東京トノ間一ハ出雲境ト東京トノ間トス

鎮守府艦隊等ニ電報シテ異常氣象ノ報告ヲ爲スコト百五十回ニシテ又官報ニ投寄シテ氣象報告ヲ爲スコト三百六十六回トス

圖 誌

本年海圖ノ刊行スルモノ二十五枚トス中ニ就キ新測圖十枚編輯覆版及改刻スルモノ十五枚ニシテ印刷枚數七千四百四十枚トス其他雜圖及罫紙ヲ印刷セリ抑製圖事業タルヤ年ニ増加スルニ隨ヒ印刷器械モ亦數ヲ増シ今ヤ大小器漸ク備リ且其工場ノ狹隘ナルニ因リ本年之ヲ新築ス是ニ於テ銅石版各其位置ヲ分テ大ニ印刷ノ便益タルヲ得又從來ノ銅板腐蝕藥ニ改良ヲ爲シ隨テ版面鮮明ニシテ大ニ時間ト費用ヲ節減スルヲ得タリト云フ今其新刊海圖中ニ就キ二十四板ヲ區別シテ左ニ掲ク

書誌ノ刊行ハ八種ニシテ總部數ハ八千二百十部ナリ又往年以來寰瀛水路誌第一卷上下(日本部)ハ内外ヨリ蒐集セル幾多ノ材料ニ依リ著々編纂ノ步ヲ進メ其他隣邦ノ英譯モ共ニ編纂刊行ノ途ニ就ケリ

第一刊行圖

番 號	圖 名	測量種類	尺 度	大 小	圖 種 類	版 種 類
	第一刊行圖					

此表中海圖及其他印刷葉數費額左ノ如シ

一六六	日本九州北西岸 伊萬里灣泊地及水道	同	四寸	二尺三寸 一尺一寸	同	銅版
一六八	日本羽後國船 川灣略測圖	新圖	四寸五五	同	同	銅版
一六七	日本中土南東岸 勝浦及犬吠埼	同	一寸四五	一尺六寸 一尺一寸	港泊圖	石版
一七三	支那東岸 自溫州灣至菲山列島	同	經度十分 二寸二三	三尺三寸 二尺三寸	同	銅版
一七二	支那東岸 自北菱司角至溫州灣	覆版	經度十分 二寸二三	三尺三寸 二尺三寸	海岸圖	銅版
一七一	日本中土長門北岸 小畑壘及江崎略測圖	新測	二寸九 七寸	一尺六寸 一尺一寸	港泊圖	石版
九五	日本海岸全圖	再刻	同 一寸七八	同	同	同
九〇	日本中土南東岸 東京海灣	改版	經度十分 五寸六	三尺三寸 二尺三寸	同	同
一六二	日本中土東岸 自黑崎至尻矢埼	新測	經度十分 二寸九五	三尺三寸 二尺三寸	海岸圖	同
一一	日本中土南岸 濱島及五ヶ所港	編製	二寸〇二	同	同	同
一六五	露領沿岸 治佛里斯丹港州	覆版	七寸五	二尺三寸 一尺七寸	港泊圖	同

一四三	日本西海道全岸	編製	同 一寸二三	同 繼足六寸 一尺三寸	同	銅版
四八	支那海 澎湖那列島	同	經度十分 六寸八	三尺三寸 二尺三寸	同	銅版
一二九	支那海 安南海灣附載海南島	覆版	經度一度 二寸八	二尺三寸 一尺七寸	同	石版
一一一	日本中土南岸 自東京海灣至和泉海	同	經度十分 一寸三三	三尺八寸 二尺三寸	同	同
一二八	日本總計	編製	經度一度 〇寸八	三尺八寸 二尺八寸	海岸圖	銅版
二三	圭嶺樺太北岸 露領土北岸	同	四十寸五	同	同	石版
六	日本北海道南岸 函館	同	三寸	同	同	同
六五	支那東岸 泉州	覆版	一寸五	二尺三寸 一尺七寸	港泊圖	同
八一	日本中土東岸 石ノ卷灣附近沿岸	同	經度一分 〇寸八	三尺三寸 二尺三寸	海岸圖	同
一五九	日本中土東岸 鮫泊地及久慈灣	同	二寸五 三寸九二	同	港泊圖	同
一五八	日本中土東岸 尻矢	同	二寸九六	二尺三寸 一尺七寸	同	同
一五六	日本內海豐後水道 自佐賀關至鶴見崎	同	同	三尺六寸 二尺三寸	同	同
一五五	日本內海伊豫西岸 自長濱至高茂崎	新測	經度一分 〇寸八	三尺八寸 三尺三寸	海岸圖	銅版

種類	印刷葉數	費額
海圖	七、四四〇	一、八〇二、八〇〇
襍圖	四、五〇一	八〇、八二八
野紙	一、二、八四九	一、七七、二二八
計	二、四、七九〇	二、〇六〇、七五六

此他軍事部用トシテ海面防禦ニ關スル數多ノ圖類ヲ編製寫圖セリ

刊行書

書名	區別	冊數	刊行部數	刊行費
震瀛水路誌	四七卷	二	四〇〇	六、四六、九八〇
水路雜誌	自七十七號至九十六號	二〇	三、〇〇〇	二、二五、四三〇
水部報告	自百五十七號至百八十七號	三一	一、三一〇	三、二、二五〇
刊行海圖水部誌目錄		一	二〇〇	一、七、七四〇

觀象雜誌	自至	號號	冊數	刊行部數	刊行費
十六年測候報告	自十六年十二月	〇	一	一五〇	一、二、四二五
測候報告	自十七年十一月	一二	一、八〇〇	二、三、四、〇〇〇	
磁氣報告	自十七年七月	五	七五〇	三、四、一、二五〇	
計		〇	七六	八、二一〇	一、五、五、一、四〇〇

又海圖々圖誌報告等ヲ海軍各廳艦船及他官廳ニ配付スルモノ三千二百二十一冊及二千六百五十七枚ニシテ官民ニ賣與スルモノ九十六冊及千六百九十二枚トス第一表ノ如シ而シテ交換ノ約ニ因リ外國官民ニ贈付スルモノ海圖四百九枚報告及書表七百六十八冊トス第二表ノ如シ

要スルニ刊行圖誌ニ關シテハ明治九年米國費府博覽會出品以來十一年佛國博覽會十四年伊國博覽會ニモ亦之ヲ出品シ各銅牌或ハ賞狀ヲ得ヌ圖誌交換ニ據リ我ヨリ贈付スルモノニシテ英露兩國カ之ヲ覆版シ以テ各其海軍海圖

ニ編入スルモノ少カラス其他外國軍艦紳士及我カ艦船ノ遠洋航海ニ關シ好意ヲ受タル外國政府へ贈與シタルモノ亦タ甚タ多キヲ見テモ當局者ハ我事業ヲシテ世界的活動ノ資ヲ成スニ務メタルヲ見ルニ足ル

第一 刊行書圖表交付

區別	海軍部内へ配付		官民へ賣與		計
	部	冊	部	冊	
諸水路誌	六	一七二	八	、	六
天圖	、	、	、	、	一八〇
地圖	、	、	、	、	、
海圖	、	、	、	、	、
雜誌	、	、	、	、	、
報告	、	九九八	、	一五	、
雜書表	一四	、	三	、	、
合計	二〇	三、二二一	三	九六、一六九二	二、三三三、一七四、三四九

第二 刊行書

國名及廳名	受贈		寄贈		合計
	海圖	報告 水路報告 水路雜誌	海圖	報告 水路報告 水路雜誌	
英國海軍水路局	一六	二六一	三八	四七	二〇三、二二一
米國海軍水路局	二一	、	三八	四七	三、六五七
獨逸海軍水路局	三	六四	三八	四七	三
伊國海軍水路局	七	、	三八	四七	九六、一六九二
露國海軍水路局	一四	、	三八	四七	二、三三三、一七四、三四九
和蘭海軍水路局	二九	九	三八	四七	、
澳國海軍水路局	、	二二九	三八	四七	、
在濠州領事館	、	九八	三八	四七	、
合計	二〇	三、二二一	三	九六、一六九二	二、三三三、一七四、三四九

上海領事館	、	二二	、	三八	四七
米國バンノストランド	、	一一	、	、	、
濠州觀象臺	、	、	一二	、	一五
英領印度カルカッタ港 知事	、	二	二	、	、
米國ネカス社	、	、	一	、	、
在露公使	、	、	三	、	、
英國キツ觀象臺	、	、	一	、	一五
在米臨時代理公使	一	、	、	、	、
英國綠威觀象臺	、	、	、	、	一五
米國華盛頓觀象臺	、	、	、	、	一五
伊國羅馬觀象臺	、	、	、	、	一五
獨逸伯林觀象臺	、	、	、	、	一五
奧國維也那觀象臺	、	、	、	、	一五

露國公使館	、	、	、	九八	、
米國天文士ダビンソン	、	、	一	、	、
<small>瑞西國觀象臺長 ドクトル エンドモンド、ヒルス</small>	、	、	一	、	、
米人サイイル	、	、	一	、	、
在英海軍佐官	、	、	、	四五	、
合計	九一	六九五	七三	四〇九	四三四
十	六	年	一、五七一	五、六九	

原備海圖

客歲本局ニ於テ新ニ原備海圖ヲ整頓シテ目錄ヲ製セリ抑此計畫タルヤ古昔ヨリ今ニ至ルマテ苟モ同種ノ海圖ハ悉ク之ヲ類聚シ海上ノ形勢古今ノ變易ヲシテ一目瞭然タラシムルニ在リ實ニ以テ海軍典籍上必須ノ要務ト爲ス而シテ之ヲ區分シ第一原備圖第二原備圖ト稱ス第一原備圖ハ本邦及清國東京

以北朝鮮ヲ經テ露西亞堪察加ニ至ルノ沿岸及其間ニ抱有スル島嶼ノ諸海圖ニシテ各其圖名番號測量出版改正ノ年月經緯度磁針差潮候時干滿差尺度圖版ノ大小測量ノ人名及改正ノ事項ニ至ルマテ調査シテ一モ漏ス所ナシ而シテ是歲十二月其調査ヲ了リタルモノ海圖七百三十六枚トス是ヨリシテ益之カ整備ヲ圖リ本年ニ於テ増加スルモノ百三枚トス之ヲ前年數ニ合シ八百三十九枚ニ及ヘリ其種類タルヤ三百三十五種ニシテ英版四百二十四枚米版八十一枚佛版五十四枚露版五十枚荷版三枚清版十二枚本局版二百十五枚トス第二原備圖ハ第一原備ノ區域以外ノ世界各國ノ諸海圖ニシテ之ヲ第一原備圖ニ比スレハ種類葉數共ニ多キヲ以テ姑ク圖名番號測量出版改正年月等ノ大要ヲ調査スルニ止メ本年一月業ヲ起シ十一月ニ至リ全ク之ヲ了セリ其種類タルヤ三千二百五十三種ニシテ四千九百枚トス即チ英版三千三百三枚佛版二百五十五枚米版九百五十五枚露版四十二枚獨版六十八枚伊版七十四枚荷版八十七枚澳版三十八枚印度版十四枚智版六十四枚ニシテ外ニ雜圖三十

二枚トス

以上各國ノ海圖ハ一七九〇年乃至一八八四年ノ刊行ナルモ多クハ改正増補ヲ經タルモノナルヲ見テ新圖ノ必要ナル注意ヲ喚起シ又之ヲ概評セハ廣ク世界ノ各部ニ互ルモノハ英海軍海圖ヲ第一トシ其彫刻ノ美ヲ留ムルモノハ伊太利ノモノヲ第一トセリ

測器

六分儀ハ從來外國ノ製品ヲ購求シ來リシカ明治十六年以來刻苦ニ依リ本年始メテ之ヲ製造スルヲ得タリ之ヲ試驗スルニ海岸投鉛用ノ使用ニ於テハ毫モ舶來品ニ異ナラス唯之ヲ天測ニ用フレハ弧度中ニ於テ微差ヲ生スルノ憾アルモ始製ノ上ヨリ見レハ比較的好成績ト謂フモ不可ナキナリ又海軍各廳艦船ノ需用ニ應シ測器ノ新規交付及引替修理シタルモノ三百六十九個ニシテ且測器ノ試驗ヲ爲スモノ三百五十八個トス其別左表ノ如シ

測器支出

區別	新	規	引	替	修	理	計
諸廳		一二		一五		七	三四
艦船營		一八四		一二六		二五	三三五
合計		一九六		一四一		三二	三六九
十六年		九九		一二四		五四	二七七
測器試験							
器名	箇數	試験回数	記事				
經線儀	一〇六	九四、四五〇	觀象臺原基ト比較シテ日差ヲ試験ス				
甲板時計	四七	一七、一五五	觀象臺原基時儀ト比較シテ日差ヲ試験ス				
六分儀	三七	三七					
風雨錶	四〇	四、〇〇〇					
寒暑錶	三六	五〇四	觀象臺原基ト比較シテ日差ヲ試験ス				

小科目	俸給	雜給	廳費	營繕費	船具費	雜件	總計	十七年度	十六年度	十五年度
水路局	三六、三〇一	一四、四〇八	二二、二七九	四〇二	五、二九六	四三二	七二、二一九	六八、〇七三	六九、六九〇	
海底溫度器		六		八六						
羅鍼		七〇		七〇	文字版ハ八方向ヲ驗シ磁鍼ハ磁鍼竿ヲ以テ之ヲ驗ス					
水銀盤		三		三						
望遠鏡		六		六						
双眼鏡		五		五						
懸時計		二		二〇						
合計	三五八	三九七	一一六、三三六	二六、二七六						
十六年										

經費

〔備考〕 但本經費實算表ハ海軍省第十一年報(明治十八年)ヨリ轉載

明治十八年

第一號(二月)

水路局定員表

(但等外雇等ハ之ヲ除ク)

庶務課長	佐官一人	內事掛	九等官以下	貳人	
外事掛	拾等官以下	壹人			
報告掛	拾三等官以下	壹人			
出測員	尉官拾等官以下	貳人			昨年尉官三人他へ 轉シタルヲ以テ目 下探索中
在局員	尉官	壹人			
測天掛	七八等官ノ内 拾等官以下	壹人			一人缺員目下雇員 ニテ事業試中
測候掛	拾等官以下	四人			貳人缺員前ニ同シ
測器試驗掛	中少尉ノ内 拾等官以下	壹人			
報告并雜務掛	拾一等官以下	壹人			
觀象課長	尉官ノ内一人				
副長	大尉ノ内一人				

水路誌掛	八等官以下 十三等官迄	四人			貳人缺員目下雇員 ニテ試中
校刊掛	八等官以下 十二等官迄	貳人			壹人缺員前同
水路報告掛	十等官以下 十二等官迄	貳人			貳人共缺員前同
圖書掛	十等官以下 十七等	貳人			貳人共缺員前同
製圖掛	壹等師以下 五等工長迄	六人			壹人缺員工手ヲ以 テ補充ス
鑄刻掛	工長	八人			貳人缺員前ニ同シ
銅石版刷版掛	工長	貳人			貳人共缺員前同シ
寫真掛	拾等官以下	壹人			缺員ニ付目下製圖 掛工手ヲ以テ補充 ス
用度掛	尉官拾等官以下	壹人			
保存掛	尉官	壹人			一人缺員ニ付目下 雇員ニテ試中
修理掛	工長	貳人			貳人共缺員ニ付目 下雇員ニテ試中
記簿掛	拾等官以下	貳人			
購買掛	前同	壹人			
給與掛	前同	壹人			缺員ニ付雇員試中
圖誌課長	佐官一人				
副長	匠司一人				
兼務ス	缺員ニ付量地課長 ヨリ兼務ス				
整什課長	佐官一人				
主計部長	主計一人				

明治十八年

各局諸官廨定員取調可申出旨秘二第三十九號内達ニ基キ前書定員表差出ス

明治十八年

第二號

新版内外國沿岸海圖御準備并海圖改正暗礁
記入之義ニ付軍事部ノ上申ノ要

一從來各艦船ニ渡付有之隣邦沿岸諸海圖ハ舊版ノモノ而已ニテ水路局貯藏
之分モ亦新版圖少ナク艦船ニ備ヘ付クルニハ不充分ニ可有之被存候金剛
艦支那及朝鮮海へ派遣之際臨時買上來リ候海圖ヲ檢スルニ大抵明治十五
六年ノ出版ニシテ沿岸形狀及ヒ鍾測等モ較ヤ増補改良ヲ加ヘタルモノナ
リ抑モ朝鮮西岸及支那海ノ如キ要港ハ大概河江ノ一ニシテ其深淺等モ變

換シ易ク即チ昨年ノ深淵ハ今年ノ淺淵ト變スルコト屢次ナリ此地形ニ對
シ如斯舊圖ヲ用ヒ候テハ航海ノ用ニ不充分ハ無論軍機ヲ誤ルコト不尠ト
相考候又是迄内國沿岸圖ノ内水路局測量ノ分ハ出版次第諸艦船へ致配付
候得共外國出版ノ分ハ新版圖アリト雖モ艦船ニ在テハ之レヲ不知ヨリ自
然舊版圖ヲ用ヒ居候コト有之現ニ金剛艦ノ如キハ過般下ノ關攔礁ノ際ハ
洋曆千八百六十四年出版同千八百七十三年改正ノ舊圖ヲ用ヒ居候事抔不
都合不少仍テ向後ハ隣邦及本邦海圖ハ外國出版ノ分ヲ速カニ購求スルノ
法ヲ立テ各艦船ニ新圖ヲ備ヘ付クルノ手續ヲ御定相成度
一是迄内外國沿岸海圖中ニ改正増補並暗礁ノ發見浮標位置ノ變移等有之節
ハ水路局ヨリ水路報告ヲ以テ一般ニ報道シ艦船ニハ此報道ヲ受ケ之レヲ
海圖ニ記入シ來リ候得共水路局貯藏ノ海圖ハ却テ之レヲ記入スルコトナ
ク從テ艦船渡之節更ニ記入等ヲ經サルモノアリ抑モ我海軍ニ於テハ追々
新艦モ増加シ且ツ何レノ艦船ニテモ多數ノ海圖ヲ一時ニ受取リ該報道ニ

遡リ一々之レヲ改正記入スルコト平常猶難シトス況ンヤ出師ノ時機ニ際スレハ出艦準備等アリ加之右記入ノ事アルトキハ事務ニ非常ノ煩劇ヲ來タシ實際差支ナキヲ免レス仍テ水路局貯藏圖ハ不斷改正記入致置候様相成度

前書之件々多少ノ金額ヲ要スルコトナレトモ孰レモ出師ノ準備ニ關シ今日ノ急務ニモ有之艦船ノ安危ニ直接ノ關係ヲ有スル義ニ付至急着手候様水路局へ御達相成度云々

艦船渡海圖之儀ニ付軍事部申出ニ由リ

水路局意見ノ上申ノ要

軍事部申出水路局貯藏之分モ亦新版圖少クト有之候得共當局原備圖ハ大約完備シアリ勿論外國出版後半年位ヲ過キ候分モ不少故先ツ目今ニテハ去年七月頃迄之分ハ相備リ居申候乍去寡少之改正ニシテ既ニ報告ニ掲載候分ハ交換ニテ不差越分モ有之此程軍事部ヨリ上申ノ金剛艦臨時買上ノ新版海

圖モ悉皆調査候處十五葉之内僅ニ貳葉ハ當局貯藏ヲ缺キ候モ其他ハ悉皆當局備付アリテ金剛買入ノモノハ却テ舊圖ニ有之候且ツ海圖ノ改正ニハ左記ノ如ク種々有之

- 第一、 略測圖ヲ實測圖ニ改正シタル者
- 第二、 淺洲ノ改正シタル者
- 第三、 舊圖ヲ縮メテ區域ヲ擴メタル者
- 第四、 總圖ニ港灣圖ヲ添ヘタル者
- 第五、 發見ノ暗礁ヲ加ヘタル者
- 第六、 燈臺ヲ新ニ記入シタル者
- 第七、 羅鍼差ヲ改正シタル者
- 第八、 經緯度ヲ改正シタル者
- 第九、 總圖ノ位置ヲ少シク改正シタル者
- 第十、 浮標ノ位置ヲ改正シタル者

如上ノ改正ハ年々夥敷有之已ニ第一第二ノ如キハ之ヲ繙刻シ或ハ英版ヲ購求シテ各艦ニ漸次配布ノ見込ナルモ當局定額ニ剩餘ナキ爲メ一時ニ相辨シ難ク尤モ又印刷モ急遽ノ場合ニハ各艦ヨリ臨時之ヲ望ムトキハ原備圖ヨリ速ニ石版ニ覆寫シ印刷セハ三四日ニ於テ之ヲ辨シ得ヘキモ是迄艦船ヘ外行ノ御内意アルモ當局ヘ御内達無之又艦船ヨリモ要求セス甚シキニ至リテハ本局出版ノ新圖スラ艦船ヨリ要求セサルモノアリ故ニ臨時事件アルトキハ自今可成速ニ内報ニ接シ度又第三ヨリ第十ニ至ル改正ノ種類ハ小改正ニテ其都度報告告示シ有之又艦船備付海圖ハ舊版ノ者ノミトアルモ已ニ十五、十六年間出版ノ分モ配付シアリ且ツ艦船外國直買ノ備付圖ハ船載ノ儘ナレハ何年出版ノモノナルヤ之ヲ知ルニ由ナシ此等ハ爾來各艦船ニ就テ其新古精粗ヲ検査スルノ方法相立度此儀ハ近日別ニ建言可仕候事情此ノ如クナレハ告示ニ依テ小改正スヘキモノモ改正圖ナリトテ毎回購求セハ忽チ數十百葉ノ廢版圖ヲ生スヘク殆ト無益ニ屬スルヲ以テ購入ハ大改正以上ニ止ムルヲ

至當トナス而已ナラス又末項ニ當局貯藏海圖ハ不斷改正記入致シ度云々之義ハ當局固ヨリ賛成ナルモ從前之定員ニテハ非常ナル夥多ノ海圖ヘ燈臺新設浮標變置其他等水路報告ニ依ル小改正記入ハ緊急ナル常務スラ時間外勤務ニ依ルノ實況ナルカ故ニ姑ク告示ヲ貼付シ直接改正ニ代ヘ其新形ヲ保タシメ候然レトモ當局ニテ記入ヲ實行スルニハ其爲メ新タニ月給金三十圓前後之者兩名御増員相成候様致度乍併軍事部意見ノ如ク大小改正ヲ問ハス購入スルトキハ購入費一ケ年大約金三千五百圓ノ増額ヲ要スヘク此儀如何ノモノヤ要スルニ第一第二ノ如キ大改正ノ圖類即チ手記改正シ難キ程ノモノニ限リ艦船ノ數ニ應シ購求候テ可然其他燈臺浮標及ヒ水深等一二些少ノ變更セシ分即チ第三類改正ノ圖類ノ若キハ原本一葉宛ヲ買入レ候テ已版圖ニ改補記入セハ充分航海ノ用ニ供シ得ヘク乃チ小改正ハ記入シ其大部分補記ヲ要スルモノハ附圖報告ヲ用ヒ改正スルノ手段ニ依ルヲ適當ト認メ候云々

明治十八年

第三號(五月)

一金參千四百圓

內 譯

金千貳百七拾壹圓

金貳百四拾圓

金九拾四圓

金五拾六圓

金六拾八圓

金百六拾五圓

金四百貳拾圓

金百八拾五圓

出測用測器買入代

經緯儀 大小 三個

袖珍六分儀 五個

袖珍羅針 貳個

機器水程儀 貳個

水銀盤 貳個

「ビームコンパス」 五個

端舟羅針 五個

圓形分度儀 大小 三個

金八拾圓

袖珍圖引道具 五個

金九拾六圓

「プロボルシヨナルコンパス」八個

金百八拾四圓

「ヘリヲトローフ」 貳個

金參拾七圓

六分儀臺 貳個

金百圓

眞鍮尺長三尺五寸ノモノ 貳個

金拾五圓

木製分度儀 三個

金貳拾五圓

檢潮用八角時計 五個

金貳拾四圓

鐵製定規長三尺五寸ノモノ 貳個

金拾圓

文鎮 拾個

金拾圓

大畫圈規 貳個

金貳拾五圓

「ランタルン」 五個

金四拾圓

鉛錘 四拾個

金貳百四拾圓

投鉛用袖珍時計 五個

明治十八年

三七九

三七八

* 中艦隊ノ意見 經線儀ニ

* 中艦隊ノ意見 端舟用羅 鍼盤及ヒ投鉛之儀ハ操練ノ

爲メノミニ用ユルモノニ之
レナク軍艦ニアリテハ端舟
ノ常ニ本艦ヲ離ル、トキニ
於テハ必ス備付ヘキモノナ
リ依テ艦ノ等級ニ關セス羅
鍼盤同様毎舟壹個宛備付ル
* 鎮守府ノ意見 端舟用羅
針盤ニ同シト修正アリタシ

* 中艦隊ノ意見 來年曆
每艦二冊五等艦以下ハ每艦
壹冊每年六月迄ニ必ス渡ス
ヘシ

投*	托水機器 付投鉛	圖引具 三角定規一尺ト八寸 ト二組添	計時砂		機器水程儀	同用轆車	水程儀	晴雨儀		雙眼鏡	
			十四秒	廿八秒				水銀	亞氏	端舟用	本艦用
二	一	二	三	三	二	二	三	一	二	每端舟壹個ツツヲ備フ	四
二	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	一		一
二	一	二	三	三	二	二	三	一	二		四
二	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	一		一
二	一	一	三	三	二	二	三	一	二		一
二	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	一		一
二	一	一	三	三	二	二	三	一	二		二
一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	一		一
二	一	一	二	二	一	二	三	一	一		二
一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	一		一
二	一	一	二	二	一	一	二	一	一		一
一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇
一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇
一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇
〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	一	〇		一
二	〇	一	一	一	一	一	一	一	一		一
一	〇	一	一	一	〇	二	二	一	〇		一
〇	〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇

航	繪ノ具箱	紙		野		圖紙 鉛葉筒添	同紙 鉛葉筒添	映臨布 鉛葉筒添	甲板用 寒暖計	同用 轆車	鉛	
		寒暖計用	晴雨儀用	測羅 自差	羅鍼 較用						* 端舟用	小
每艦二冊ツ、	每艦壹個ヲ備フ								二	二	二	八
									〇	〇	〇	二
									二	二	二	八
									〇	〇	〇	二
									二	二	二	八
									〇	〇	〇	二
									二	二	二	六
									〇	〇	〇	一
									二	二	二	六
									〇	〇	〇	一
									一	一	一	五
									〇	〇	〇	一
									一	一	一	四
									〇	〇	〇	一
									〇	〇	〇	三
									〇	〇	〇	一
									〇	〇	〇	〇
									〇	〇	〇	〇
									〇	二	四	二
									〇	一	六	五
									〇	〇	一	〇